公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成28年2月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻557号

ハンドボール

1・2

JAN. FEB. 2016 No.557

特集

リオ・デ・ジャネイロオリンピック 男子アジア予選

第67回 日本選手権大会

男子第58回 女子第51回 全日本学生選手権大会

［表紙写真］ 日本選手権大会男子優勝のトヨタ車体・木切倉真一選手(左)、女子優勝の北國銀行・横嶋かおる選手(右)

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.or.jp/

年頭にあたり

公益財団法人 日本ハンドボール協会会長　**渡邊 佳英**

新年も早やひと月が過ぎました。全国のハンドボール愛好者の皆様におかれましては、健やかにお過ごしのこととお喜び申し上げます。日頃、日本協会が進める諸事業に対し深いご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年10月に愛知県名古屋市で行われました2016年リオデジャネイロオリンピックハンドボール競技女子アジア予選大会にて、日本女子代表チームは韓国に次いで2位となり、本年3月に行われるIHF世界最終予選に回ることとなりました。この間、海外遠征また国内合宿でトレーニングを積み、リオデジャネイロオリンピックハンドボール競技アジア予選に1位通過を目指して準備をして参りました。また、予選を日本で開催し、会場満員の中、ホームゲームとして戦う準備もして参りました。応援戴いた沢山のファンの皆様、サポート戴いた皆様に対し、改めてお礼を申し上げる次第です。心から感謝を申し上げます。残されたチャンスである3月に行われますIHF世界最終予選では、フランス、オランダ、チュニジアのグループとなりました。この中で是が非でも2位以内に入り、リオデジャネイロオリンピックの出場権獲得を目指します。引き続き、応援よろしくお願い申し上げます。

男子日本代表につきましては、11月にカタール・ドーハで行われました2016年リオデジャネイロオリンピックハンドボール競技男子アジア予選大会において5位となり、リオデジャネイロオリンピック出場はなりませんでした。この間、ご支援・ご協力、激励・応援を戴きました皆様にお詫びを申し上げますとともに、心から感謝を申し上げます。

このメッセージが皆様に届く頃には、バーレーンにて開催されます第17回男子アジア選手権の結果がすでに出ていることと思います。この大会は、2017年の世界選手権出場が懸かっています。さらに2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて大事な大会でもあります。初戦の韓国戦では、1990年7月のグッドウィルゲームズ以来の勝利を収めることができました。大変良いスタートが切れたと思っております。と同時に、これを契機とし、2020年には必ずやメダル獲得が出来るよう更なる強化に取り組んで参ります。

また、年初には、味の素ナショナルトレーニングセンターでNTSセンタートレーニングが行われました。全国より選ばれた高校生・中学生が将来の日本代表を目指してトレーニングに励みました。数ある競技の中からハンドボールを選んでくれた子供たちに感謝するとともに、彼ら、彼女たちが夢と希望が持てるよう取組んで参ります。7月にスロバキアで女子ユース世界選手権が、8月にバーレーンで男子ユースアジア選手権が行われます。次代を担うユース世代にはより経験を積んで戴き、将来の日本を支えてほしいと期待しています。

そして、2019年熊本女子世界選手権、2020年東京オリンピック・パラリンピックでの日本選手の活躍と両大会での「メダル獲得」という目標に向け、更なる覚悟を持って全力で取り組んで参ります。

全国のハンドボール愛好者の皆様、本年も幅広いご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

リオ・デ・ジャネイロオリンピック 男子アジア予選

Asian Men's Qualification for Olympic Games BRAZIL 2016

大会期間：2015年11月14日(土)－27日(金)　**開催都市**：カタール・ドーハ

予選リーグ星取表

	グループB	QAT	IRI	JPN	KSA	OMA	UZB	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	カタール(QAT)		32○17	36○19	29○23	31○20	49○9	5	5-0-0	177	88	89	10
2位	イラン(IRI)	17●32		31○27	30○24	39○31	33○18	5	4-0-1	150	132	18	8
3位	**日本(JPN)**	19●36	27●31		27○19	35○27	42○15	5	3-0-2	150	128	22	6
4位	サウジアラビア(KSA)	23●29	24●30	19●27		29○23	31○26	5	2-0-3	126	135	-9	4
5位	オマーン(OMA)	20●31	31●39	27●35	23●29		39○33	5	1-0-4	140	167	-27	2
6位	ウズベキスタン(UZB)	9●49	18●33	15●42	26●31	33●39		5	0-0-5	101	194	-93	0

[最終順位]　優勝：カタール
2位：イラン
3位：バーレーン
4位：韓国
5位：日本
6位：サウジアラビア
7位：イラク
8位：中国
9位：オマーン
10位：オーストラリア
11位：ウズベキスタン

リオデジャネイロ五輪男子アジア予選を終えて

日本らしいハンドボールを取り戻そう

日本選手団 団長　**市原 則之**

2016年リオデジャネイロオリンピックの男子ハンドボール競技アジア地区予選会が、去る11月14日から27日までの14日間にわたりカタール国ドーハで開催された。カタール国は、2006年の第15回アジア競技大会開催を契機に充実したスポーツ設備を整え、その後サッカーのワールドカップの招致や各種の国際競技大会を開催し、今や中東のスポーツ大国となっている。2006年アジア大会当時の総人口は70数万人であったが、この10年間で3倍の210数万人に膨れ上がっている。しかし、その内カタール人は約30万人程度で、その数は今も変わっていない。つまり、増加した人口は総べて外国人で、これを労働力とした経済力は、成長率にして現在世界第1位といわれている。この経済力をバックに国が進めるスポーツ行政は、各国から各競技のトップ選手を厚遇で帰化させカタール代表として活動させている。その実績は顕著で、因みに2015年4月にドーハで開催された男子ハンドボール世界選手権においては堂々の2位となり、次は、リオオリンピックの優勝を狙っているようだ。

こうした中開催された男子アジア予選会は、参加11カ国が2グループに分かれて予選ラウンドを戦い、その内の上位2チームが決勝ラウンドに進み、1位がオリンピックの出場権を獲得し、2位と3位が世界最終予選会出場の権利を得る。(今回からオセアニアがアジア地区に組み込まれる)

Aグループ：バーレン、韓国、イラク、中国、
　　　　　オーストラリア…5カ国
Bグループ：カタール、イラン、日本、サウジアラビア、
　　　　　オマーン、ウズベキスタン…6カ国

日本男子は1988年のソウル以来28年間オリンピックの道が途絶えており、日本ハンドボール協会は何としてでもオリンピックにと、新生岩本ジャパンに悲願のオリンピック出場を託した。日本のこのアジア予選の戦いは、予選ラウンドで優秀な帰化選手を揃えた開催地カタールに一矢浴びせ、同時にその他の対戦チームを確実に破って2位以内を確保する。そして決勝ラウンドで是が非でもオリンピック出場を勝ち取る。これを戦略として岩本監督以下全員が心に誓った。

従って、初戦のサウジアラビア戦は重要な一戦で、絶対に落とせない試合となった。

※以下、戦評の詳細については本誌掲載のチームスタッフ報告を参照。

○予選ラウンド第１戦

日本　27（16－13、11－6）19　サウジアラビア

立ち上がりからのテクニカルミスの多発が気になるも、初戦を快勝し予定どおりのスタート。（日本１勝）

●予選ラウンド第２戦

日本　19（9－16、10－20）36　カタール

サウジ戦同様、相変わらず立ち上がりからボーンヘッド、イージーなシュートミスなどテクニカルなミスの連続。これでは強豪カタールには歯が立たない。自滅で大差の一戦。（日本１勝１敗）

●予選ラウンド第３戦

日本　27（15－14、12－17）31　イラン

決勝ラウンド進出には絶対落とせない試合であったが、1、２戦同様立ち上りからテクニカルミスの連続。途中２点リードを数回繰り返すもたたみ込む迫力が乏しい。この敗戦で決勝ラウンド進出は他力本願。（日本１勝２敗）

○予選ラウンド第４戦

日本　35（18－15、17－12）27　オマーン

日本は前回のアジア選手権で屈辱の９位であった。その原因は近年メキメキ力を付けているオマーンを侮った敗戦。この因縁からも絶対に負けてはならず、予選ラウンドでこれ以上負けられない一戦。快勝ではあったが、勝ち味が遅く多い失点も気になる。（日本２勝２敗）

○予選ラウンド第５戦

日本　42（19－9、23－6）15　ウズベキスタン

格下のチーム相手で思い通りのプレーが出来快勝。“人事を尽くして天命を持つ”の心境であったが、結局予選ラウンドＢ組はカタールとイランが勝ち上がり日本は順位決定ラウンドに回る。またもやオリンピックへの道は途絶された。（日本３勝２敗）

【予選ラウンド結果】

Ａグループ：1．バーレン　2．韓国　3．イラク　4．中国　5．オーストラリア

Ｂグループ：1．カタール　2．イラン　**3．日本**　4．サウジアラビア　5．オマーン　6．ウズベキスタン

○順位決定ラウンド５－11位

日本　40（17－10、23－14）24　中国

○順位決定ラウンド５－６位

日本　38（14－17、24－10）27　サウジアラビア

２試合とも完勝。特にサウジ戦の後半は好守から速攻に繋ぎやっと日本らしさが出たゲームだった。この内容を予選ラウンドで発揮しておればカタールにも善戦出来、イラクには勝てただろうと悔やまれた。と同時に、当大会は岩本ジャパンの国際公式戦初舞台で、国際試合の経験不足も感じられた。

【最終順位】

1．カタール　2．イラン　3．バーレン　4．韓国
5．日本　6．サウジアラビア　7．イラク　8．中国
9．オマーン　10．オーストラリア　11．ウズベキスタン

日本男子チームの当大会の成績は５位で、2014年９月の仁川アジア大会の９位は上回ったものの、結局オリンピック出場はおろか世界最終予選すら進めなかった。日本全国の多くのハンドボール関係者や愛好者の落胆を思うにお詫びの言葉すら見当たらない。現在のアジア地域とりわけ西アジア諸国の男子ハンドボールは、早くからヨーロッパの優秀なコーチを招き年々力を蓄え確実にレベルアップされている。今では韓国、日本、中国など東アジアのチームは完全に突き放され、世界大会に出場するには西アジア諸国が大きな壁となってきた。

ここで、なぜ日本の男子ハンドボールがこういう状況に陥ったかを日本協会の強化部はもとより全国各層のハンドボール指導者は一様に考えてみなければならない。今日まで日本の代表チームも幾多の外国人コーチの指導を得てきた。とりわけ1997年の熊本開催の男子世界選手権にはスウェーデンのオルソン氏を招き、従来の日本の常識を破るような指導により一過性ではあったが好実績を残し、その指導内容を多くの関係者が注目した。

しかし、そのオルソン氏の指導遺産は、フィジカルアップの一面だけしか継承されていないのではないか。確かに代表チームのフィジカル面は高まりアジア諸国のどのチームにも負けていない。だが逆に日本らしいきめの細かさは失われ、力任せの大雑把なハンドボールが主流を成し、高校、大学、日本リーグに蔓延し、代表チームにも影響をしている。これは、代表チームの負けパターンの殆どが、テクニカルミスであるとデーターが証明している。世界で最もフィジカルなスポーツといわれるラグビーの世界でも、日本代表のジョン・カーワン元ヘッドコーチと、エディ・ジョーンズ前ヘッドコーチは「日本ラグビーは身体の大きさを求めるのみでなく、日本らしい独特のスピード感溢れるラグビーを磨くべき」と口を揃える。また、韓国ハンドボール協会の鄭亨均副会長（1992バルセロナオリンピック韓国女子優勝監督）は「今の日本チームはかつての１対１を抜くフェント力がないので今は全く恐くない」と豪語している。

「不易流行」という松尾芭蕉が俳諧の世界で遺した有名な言葉がある。世の中には変わってはいけないのも、変えてはならないものがありこれが「不易」である。反面、改善していかなければならないもの、時代とともに進歩していかなけれ

ばならないものがありこれが「流行」である。かつての日本のハンドボール界には、個人技に優れ精神的にもタフでスピード感溢れる、精度の高い選手が沢山いた。「不易を疎かにしやたら流行に走る」現在の競技力向上方策を今一度修正す必要はなかろうか。世界で勝つためには外国のトップ指導者を招くことも必要であるが、しかし、その前にしっかりと日本人らしいきめの細かいハンドボールを教え込んでおく必要はなかろうか。服を仕立てるにも本縫いの前にしっかりと仕立て糸で仕付けるように…。此の度のリオアジア予選でも日本選手のポテンシャルは高く、決して他国に引けは取っていないと思う。

幸い、日本協会はNTSシステムをベースにジュニア層の強化を推進し、現在、エリートアカデミーに有望アスリートが多数選出されてきている。また、アンダーカテゴリーの国際大会でも将来手応えある成績を残し始めた。こうしたアスリートの育成に日夜ご尽力頂いている各カテゴリーの指導者には心から敬意を表する。加えて、現状を再認識頂き、日本代表の国際競技力向上には何が必要かを全指導者がベクトルを合わせご検討いただきたく思う。メンタル、フィジカル、テクニカルのバランスのとれたトレーニングに加え、日本的なインサイドハンドボールを醸成させて、先人諸兄が培ってこられた「日本のハンドボール」を取り戻していただきたいと願い今大会の総括としたい。

最後に、現地にて、日本人学校の生徒の皆さんや日本企業など多くの方々に、全試合にわたり日の丸の小旗を振っての応援は誠に心強い限りでした。また、食事会、差し入れと心温まるおもてなしを頂き有り難う御座いました。残念ながら勝利で報いることが出来ませんでしたが、チーム一同、現地の日本国大使館様、ドーハ日本人学校様、中東三井物産様、丸紅様、中部電力様、千代田化工建設様、大成建設様、三井住友銀行様、三菱東京UFJ銀行様ほか、各位に対し本誌上にて心からの御礼を申し上げます。

選手団

役職	名前	所属
団長	市原 則之	(公財)日本ハンドボール協会
監督	岩本 真典	(公財)日本ハンドボール協会　大崎電気
コーチ	滝川 一徳	(公財)日本ハンドボール協会　藤代紫水高校
コーチ	山口 修	(公財)日本ハンドボール協会　高知中央高校
総務	近藤 恒俊	(公財)日本ハンドボール協会　大崎電気
ドクター	有田 忍	(公財)日本ハンドボール協会　陽明会小波瀬病院
トレーナー	寺尾 邦仁	(公財)日本ハンドボール協会　ながい接骨院
分析	舎利弗 学	(公財)日本ハンドボール協会

背番号	名前	所属	出身校	国際試合	
				試合数	得点
2	濱口 直大	トヨタ自動車東日本	国士舘大学	0	0
3	石戸 貴章	トヨタ車体	法政大学	12	32
5	高智 海吏	トヨタ車体	大阪体育大学	57	143
6	加藤 嵩士	大同特殊鋼	愛知大学	19	17
7	宮﨑 大輔	大崎電気	日本体育大学	114	537
8	渡部 仁	トヨタ車体	日本大学	17	48
9	森 淳	大崎電気	大阪体育大学	52	47
10	小室 大地	大崎電気	日本体育大学	9	10
12	木村 昌丈	大崎電気	日本体育大学	9	0
13	笠原 謙哉	トヨタ車体	東海大学	3	3
17	植垣 健人	大崎電気	大阪体育大学	0	0
20	千々波 英明	大同特殊鋼	日本体育大学	18	23
21	甲斐 昭人	トヨタ車体	日本体育大学	42	0
22	山田 隼也	トヨタ自動車東日本	早稲田大学	0	0
24	信太 弘樹	大崎電気	日本体育大学	31	95
25	元木 博紀	大崎電気	日本体育大学	13	42
26	久保 侑生	大同特殊鋼	筑波大学	14	0
30	成田 幸平	Fuchse Berlin(GER)	大阪体育大学	18	45

リオデジャネイロオリンピックアジア予選を終えて

男子日本代表監督　岩本 真典

初めにリオデジャネイロオリンピックアジア予選に参加するにあたり2015年4月よりご支援、ご協力いただきました日本ハンドボール協会をはじめ、選手派遣を快く受け入れてくださいました所属チーム関係者、強化合宿並びにトレーニングマッチを引き受け、受け入れて下さいました日本リーグ関係各位の皆様に改めて心より感謝申し上げます。

また4月の合宿においてアスリートビレッジ利用規定違反があり、関係各位の皆様には多大なご迷惑をおかけしましたことを改めてお詫び申し上げます。大変申し訳ありませんでした。

2015年2月に行われた男子世界選手権において2位になったカタールに挑むため、「高い山にチャレンジする」を合言葉に4月より覚悟を持ち7ヶ月間邁進してまいりました。

ご承知の通り5位という結果に終わりリオデジャネイロオリンピック出場という目標は達成することが出来ませんでした。

関係各位の皆様のご期待に応えることが出来ず誠に申し訳ありません。全ては監督の責任と痛感しておりますがコーチ以下スタッフ、選手は最後まで日本人らしく闘ってくれたことに感謝しております。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

■これまでの強化ポイント

1）異なる環境・連戦によるストレス（心・体）にどの程度フィットできるか。
2）OF局面においての戦術確認。（2：2＋1、ダブルポスト、きっかけ）
3）DFシステムの精度アップ。（6－0、3－2－1、変形5－1DF）
4）DFシステムの中でいかにボールを奪うということへのチャレンジ。
5）DF→速攻→OF局面において、「4回」の攻撃権獲得を目指し、総合的な得点力向上を目指す。
6）BC局面においての意思統一。
7）GKの対外国人（高身長・高打点）に対するキーピング。

■戦術と総括

上記のこれまでの強化ポイントにあるように、OFにおいては1対1、2対2では対外国人に勝機はないが一人を二人、二人を三人で攻めることが出来れば勝機はあるという観点から2対2＋1を基本戦術とし、DFではシステム以外にボールを奪う（牽制、ドリブルカット、ポストを抱えないでパスカット）というところを最重要課題に、FBでは日本人のスピードを生かしOFと同様の戦術とし1次から3次までの局面に戦術を導入した。各局面を繋ぎ合わせる切り替えの部分とそれ以外の試合に向けた全ての準備を行い「各局面において何で闘うか？」を明確にし大会に臨みました。代表チームは結果が全てです。目標を達成できなかったことは全て監督の責任ですが代表チームは永遠に続きます。これからは継続して強化が出来るようソフト面ハード面の環境整備が急務であると考えます。

選手として今大会に参加して見えた成果と課題

男子日本代表主将　信太 弘樹

11月14日から28日までカタール（ドーハ）で開催された2016年リオデジャネイロ五輪のアジア予選に参加して見えた成果と課題。

まず今大会を振り返ってみると、予選リーグを終えて3勝2敗。予選リーグ3位で決勝トーナメントに上がれず、リオデジャネイロ五輪出場の夢も断たれてしまった。

予選2戦目のカタール戦は立ち上がりの10分こそ日本らしい戦い方だったが、その後、カタールの強さと正確なOFに圧倒されDFで失点が続き、持ち味のFBに繋げることが出来なかった。OFでは、CSよりもDSが多くなってしまい、攻撃成功率が下がってしまった。3戦目のイラン戦は、後半ラスト10分までリードしていたものの、そこから逆転されてしまった。ラスト10分の戦い方もそうだが、それまでの50分間で勝負を決めることが出来ていれば、結果も変わったかもしれない。2点リードまでは行くのだが、3点、4点とリード出来なかったことが大きな敗因だと考える。

3戦目で2敗となり予選突破は難しいものとなったが、その後日本は、誰一人として下を向くことなく、オマーン、ウズベキスタンに勝利。5-8位決定戦でも日本は、応援してくれているたくさんの方の為にもと強い気持ちで戦い、5位という結果で大会を終えた。

成果として、まずOFではパス回し（きっかけ）から連動してCSまでもっていけた。特に右サイドの渡部の決定率は高く、日本の得点源となった。DFではアグレッシブなDFからボールを奪うことが出来れば、素早いFBに繋げることが出来た。しかし、アグレッシブにいきすぎ、DFの間が広くなってしまったり、隣のDFのフォローが遅れてしまったりしたときは失点することが多い。そこの細かいところがDFの課題だと思う。FBでは、速い展開の中での状況判断とスペースの発掘の部分をより正確に出来るようにすることが課題である。

今後、東京五輪に向けて日本リーグの選手をはじめ、学生なども当事者意識をもち、日本全体として、競技力向上を目指していかなくてはいけないと思う。

戦　評

11月14日（土）：グループB　日本　27（16－13, 11－6）19　サウジアラビア

日本ハンドボール界の期待を背負い岩本監督就任後7ヶ月という短い強化期間で迎えた五輪予選初戦。4度目の五輪予選を迎えた宮﨑、初の五輪予選を戦う若手選手が融合し魂を込めて試合に臨む。

立ち上がり固さの見られる日本。シュートチャンスを作るも相手GKの好守に阻まれ1対3と追う展開に。DFラインを修正し、徐々にリズムを取り戻した日本は成田、高智の速攻、信太、植垣のミドルシュートで15分、8対8の同点に追いつく。ここから突き放したい日本は、森のポスト、宮﨑のロングシュート等で22分12対10と2点リードを奪う。前半終盤もGK甲斐を中心にDFからの速攻で得点を重ね16対13と3点差をつけて折り返す。

ハーフタイムでDFラインの徹底とOFでの攻撃ポイントを修正し後半に入る。後半立ち上がりこの試合好調のキャプテン信太がハードプレーによるレッドカードを取られ失格となるも、加藤、成田を中心に相手攻撃をしのぎ、GK木村も、好セーブを連発し、渡部の速攻などで12分、21対16と勢いを増す。その後も元木の7mTやミドルシュート、宮﨑の効果的なミドルやアシストパスもあり着実に加点する。途中出場の石戸も得意のカットインプレーも決まり27対19で難敵サウジアラビアを撃破した。

若いチームだけに初戦突破で勢いがついた。次戦は世界選手権2位のカタール。今ある力を存分にぶつけ勝負に挑みたい。

【個人得点】宮﨑・渡部・森：4点、高智・植垣：3点、石戸・信太・元木：2点、加藤・笠原・成田：1点

11月16日（月）：グループB　日本　19（9－16, 10－20）36　カタール

予選リーグ第2戦は2月に行われた男子世界選手権2位に躍進した地元カタール。16人中14人が帰化選手と、分厚い選手層を誇る。

立ち上がり日本は作戦通り元木のカットインで先制。DFの動きも良く、GK甲斐のファインセーブもあり7分2対2と互角の展開。そこから日本は速攻チャンスをものにできず、逆にカタール左腕エースの3連打を許し3対7とリードされる。タイムアウトで立て直しを図りたい日本であったが相手のポストプレーに苦しめられ点差を徐々に開けられる。途中出場の宮﨑のミドル、濱口の速攻で得点するものの、9対16の7点ビハインドで前半を折り返す。

ハーフタイムでDF、OFともにターゲットを再確認し後半に挑む。後半立ち上がり渡部のサイド、高智のロングで加点するが相手の攻撃を食い止めることができない。シュートチャンスを作るも相手GKの好守に苦しめられる。ミスの重なる間に着実に得点を重ねられ23分17対30と大差がつく。予選リーグということもあり点差を少しでも縮めておきたい日本であったが焦りからミスを連発し、相手攻撃陣に簡単な失点を許し19対36という屈辱を味わうこととなった。

次戦から予選リーグ突破に向け一敗も許されない状況に追い込まれたが、心を1つに一致団結し前を向いて戦いたい。

【個人得点】渡部:8点、植垣:3点、宮﨑・元木:2点、濱口・高智・森・信太：1点

11月18日（水）：グループB　日本　27（15－14, 12－17）31　イラン

自力での予選リーグ突破に向け負けられない日本。やるべきことに徹して試合に臨むことを確認しゲームに入る。

立ち上がり固さの見られる日本は単調な攻撃からイランの速攻にあい0対2と先行を許す。徐々にリズムを取り戻した日本は高智のロング、信太のステップシュート、渡部の速攻などで10分5対4と逆転。以降、一進一退の攻防が続き2点リードを奪うものの流れを引き寄せる3点差がつけられない。途中出場の宮﨑のミドルやカットイン等で先行するも相手エースのパワフルなロングシュートを守り切れず15対14の1点リードで折り返す。ハーフタイムに戦術の徹底を図り後半に入る。

後半、イランの不用意な退場時、数的優位な状況でイージーミスを連発。突き放したい時間帯を自ら失い流れに乗れない。それでも石戸のミドルや渡部の速攻、GK甲斐のファインセーブで粘り、残り10分23対23と同点。勝負所の時間帯、相手エースのロングやゲームメーカーのカットインで失点し、攻撃ではノーマークシュートを阻止され27分で24対29と5点差をつけられる。終盤、宮﨑の速攻などで意地をみせるも27対31でゲーム終了。自力での準決勝進出を断たれた。

しかしながら日本がオマーン、ウズベキスタンに連勝し、サウジアラビアがイランに勝てば準決勝進出の可能性は残る。下を向くことなく日本人の誇りにかけ、最後まで諦めずに戦い、日本ハンドボールに関わる全ての方々の代表という責任を果たすべくチーム一丸となって戦い抜きたい。

【個人得点】渡部：10点、宮﨑・信太：6点、石戸：2点、高智・植垣・成田：1点

11月20日（金）：グループB　日本　35（18－15, 17－12）27　オマーン

イラン戦を落とし、自力での予選リーグ突破は不可能になった日本。しかしながらサウジ対イラン戦でサウジが勝利し、予選リーグ残り2試合を日本が連勝すれば準決勝進出となる様相。日本人の誇りにかけて代表チーム、代表選手としての責任を全うすることを誓い合いゲームに挑む。

試合開始直後オマーンのポストに先制を許すもクイックスタートから渡部が応戦。一進一退の攻防が続き12分6対6の接戦となる。先に抜け出したのは日本。GK甲斐の好守から植垣の連続速攻、今大会好調の渡部のサイドなどで加点。高智の渾身のロングも決まり23分で15対12と3点差をつける。前半終盤日本は不用意な退場者を出しピンチを招くが数的不利な場面で宮﨑の逆スピン、ミドルでしのぎ、18対15と3点差をつけ折り返す。

ハーフタイムで相手ポストの動きを封じることを確認。後半立ち上がりミスからの速攻を許し6分、21対20と1点差に詰め寄られる。その後相手退場の間に元木のロング、信太から植垣へのスカイプレー、成田の連続得点やGK甲斐の好守もあり15分29対22と一気に流れをつかむ。その後も残り時間と点差を考え慎重な試合運びに徹し、終盤に今大会初出場の山田のミドルも決まり、GK木村が好セーブを連発し35対27と8点差をつけ勝利した。

市原団長からも「人事を尽くして天命を待つ」という檄をもらいチーム一丸となって最後まで戦い抜く覚悟である。

【個人得点】渡部:9点、植垣:7点、成田:5点、高智・宮﨑:3点、元木：2点、濱口・石戸・小室・千々波・山田・信太：1点

戦　評

11月22日（日）：グループB　日本　42（19－9, 23－6）15　ウズベキスタン

予選リーグ最終戦。勝ち方にもこだわって戦うことを確認しゲームに臨む。

立ち上がり植垣の鋭いミドルで先制。ウズベキスタンも左利きエースのロングで応戦するも地力に勝る日本は高智、渡部の速攻や信太のロングなど多彩な攻撃で圧倒し15分12対5と突き放す。その後も攻撃の手を緩めず速攻から宮﨑のサイド、ポスト森が加点し19対9で折り返す。

ハーフタイムでシンプルなことを徹底し後半に入る。山田のロングを皮切りに植垣のカットイン、信太のロングで一気にリードを広げる。終盤、加藤のポスト、元木や石戸の速攻で加点し42対15で圧勝した。

［個人得点］信太:7点、植垣･元木:6点、石戸:5点、高智･渡部:4点、成田：3点、千々波・山田：2点、加藤・宮﨑・森：1点

11月25日（水）：5－8位戦　日本　40（17－10, 23－14）24　中国

五輪への道は閉ざされたが日本代表としての責任を果たすべく一つでも順位を上げることを誓い試合に挑む。

固さが見られた前半立ち上がり中国に簡単な失点を許し0対3とリードされる。高智のロング、渡部のサイドで落ち着きを取り戻した日本はその後も信太の連続得点、成田のサイドなどで19分11対8と逆転。今大会初出場のGK久保が好守を見せ、中国退場の間に石戸、宮﨑の速攻で着実に加点。17対10で前半を折り返す。

後半に入っても日本の勢いは衰えず、信太の二連取、元木、山田のサイドなどで20分32対17とリード。最後まで攻撃の手を緩めず濱口のロングや森のポストなどで40対23と中国を圧倒した。

［個人得点］石戸:7点、信太:6点、渡部･成田:5点、宮﨑･元木:4点、高智・加藤：2点、濱口・森・小室・植垣・山田：1点

11月26日（木）：5、6位戦　日本　38（14－17, 24－10）27　サウジアラビア

今大会最終戦、4月から積み上げてきたものを全てコートに出そうと臨んだ5～6位決定戦。相手は予選リーグ初戦で27対19で勝利したサウジアラビア。

立ち上がり日本は成田のロング、加藤のポストなどで3対1と好スタート。しかしそこからサウジアラビアのロング、両サイドに得点を許し8分3対6と5連続失点。相手に流れを渡してしまう。DFで立て直し、そこから日本は信太のカットインや渡部の連続得点で14分9対9の同点に追いつく。一気に流れを手繰り寄せたかにみられたが、退場者を立て続けに出す間に失点を許し前半を14対17で折り返す。

ハーフタイムにもう一度戦術の徹底を図り最後の30分に入る。後半立ち上がりペースをつかんだのは日本。GK木村の好セーブから元木の連続得点や信太のカットインなどで6分20対19と逆転に成功。勢いに乗る日本は植垣の連続速攻、成田の豪快なカットイン、小室のポストなどで終盤まで着実に加点。38対27で逆転勝利をおさめた。チームとして目指すべきハンドボールを後半30分間、選手は見事にコート上に示してくれた。市原団長も素晴らしいゲームであったと選手を労った。五輪という目標を失うも最後までチームとして戦い抜き、成長し続けた日本。4月から色々なことがあったがチームとしてそれを乗り越え、個人としてもしっかり成長し続けた選手たち。この思いが次なるステージで実ることを願いたい。

［個人得点］元木:8点、信太:7点、渡部:6点、植垣･成田:4点、石戸・加藤・山田：2点、高智・宮﨑・小室：1点

男子代表新監督に カルロス・オルテガ氏 決定

日本男子代表監督
アントニオ カルロス オルテガ ペレス

日本の皆様、この度、日本男子代表監督になりましたアントニオ　カルロス　オルテガ　ペレスです。どうぞよろしくお願いいたします。

アジア選手権まで2週間しかなく、時間が限られてはいますが、選手達のモチベーションは高く、チームの統制もとれており、チーム一丸となってがんばっています。 多くのことを変える時間はありませんが、チームがこれまで培ってきたものを基にして、より強化していこうと思います。一つの基軸となるシステムを以って進めていきたいと思いますが、より細かい部分に目を向け、理解を深めていきたいと思います。

大会については、私にとってアジアでの戦いは、初めての大会になります。アジアの試合を毎日勉強しているところではありますが、我々の韓国との第一戦は、本大会の中でも最も重要な試合の一つであることを私も理解しています。長年勝ったことのない相手ですが、これまでの試合は、過去の歴史です。我々はポジティブになるべきです、なぜならこれまでの差はそれほど大きなものではなく、新たな歴史をスタートさせるチャンスも我々にはあるのです。皆さんに喜んでいただけるよう、最善を尽くしてがんばっていきます。

皆様の応援宜しくお願いいたします。

2016年1月8日　　　アントニオ　カルロス　オルテガ ペレス

Antonio Carlos Ortega Peres（アントニオ カルロス オルテガ ペレス）
1971年7月14日（44歳）Malaga Spain（スペイン・マラガ出身）

大会を終えて

愛知県ハンドボール協会理事長　**矢野 哲二**

「第 67 回日本ハンドボール選手大会」は 12 月 22 日（火）～ 12 月 27 日（日）まで愛知県体育館・枇杷島スポーツセンター（22 日～ 25 日）で開催いたしました。昨年、一昨年の全日本総合に引き続き 3 年連続の大会開催になりました。名称変更の日本選手権大会は全国 9 ブロックの代表、学生連盟、日本リーグ勢で構成されました。愛知県での開催は過去 8 回開催されており、そのうち第 1 回大会、昨年の全日本総合大会最後の第 66 回大会、日本選手権最初の第 67 回大会と開催できたことは大変光栄なことと存じます。参加チーム数は 28 チームから 44 チームへ、試合数も 26 試合から 42 試合に増加いたしました。したがって試合前日に代表者会議、試合期間も 5 日間から 6 日間に延長いたしました。特に試合第 3 日目は各会場 6 試合実施と日程的には大変ハードな試合運営になり選手の方はもちろん役員の方にもご苦労をおかけいたしました。また、出場形態の変更により、高校が 3 チーム（男子 2・女子 1）出場したことは大変新鮮な感じで素晴らしいことに思えました。

試合は男子では早稲田大学が湧永製薬に勝ちベスト 8 進出の健闘もありましたが準決勝は男子・女子ともリーグ勢の 4 チームになりました。男子準決勝は昨年に続き同じ対戦相手になりました。大同特殊鋼×琉球コラソンは GK 久保の好セーブもありリードを守り切った大同特殊鋼が勝利を収めました。続く大崎電気×トヨタ車体は GK 甲斐が好セーブを連発。大崎電気も食い下がるが自チームに来た流れを逃がさなかったトヨタ車体が 28 対 23 で決勝に駒を進めました。決勝戦は会場を埋め尽くす両チームの大応援団と割れんばかりの声援を受けての中、4 年ぶりの愛知県勢同士の大同特殊鋼とトヨタ車体の決勝戦になりました。試合は前半 6 分トヨタ車体 4 対 0 とリードするがその後大同特殊鋼が 2 点差に詰め寄る。しかしトヨタ車体の堅実な攻撃、GK の好セーブなどにより 16 対 11 トヨタ車体リードで前半を終了する。後半トヨタ車体は 5 得点連取で 21 対 12 と引き離すが大同も 4 点連取で食らいつく。その後、トヨタ車体は約 10 分間無得点の苦しい時間帯の中、大同特殊

鋼は後半28分、26対25の1点差に追いつく。残り40秒大同特殊鋼のマイボール。しかしトヨタ車体の高い壁が立ちふさがる。大同のノータムフリースロー、トヨタ車体の体を張ったブロック。1点差でトヨタ車体が4年ぶり2回目の優勝を飾りました。最後まで手に汗を握る素晴らしい試合でありました。

女子では小松市立高校が1回戦、兵庫県代表の関西学院大学を破り2回戦へ進出、2回戦敗退でしたが小松市立高校の健闘が称えられます。準決勝第1試合、北國銀行×ソニーセミコンダクタは前後半とも危なげない試合運びで北國銀行が決勝戦に進出。第2試合、オムロン×広島メイプルレッズは前半8対8で折り返す。後半1点差を争う攻防であったが、堅いデフェンスのオムロンが19対17で決勝に駒を進めました。決勝戦は大会5連覇を狙うオムロン×北國銀行の昨年同様の対戦になりました。前半13対8北國銀行リードで折り返すが、後半は一変オムロンペースになり1点差に詰め寄る。その後試合は互角の展開となる。最後は追いすがるオムロンを振り切り24対21で北國銀行が22年ぶりの優勝を勝ち取りました。1回戦よりどの試合も白熱した展開と、無事終了したことに安堵しております。特に男子決勝戦はトヨタ車体×大同特殊鋼の愛知県勢同士の戦いになり心底よりうれしさがこみあげてきました。男子決勝ハーフタイムには、「くまもん」出演の2019世界選手権シンボルマーク表彰。愛工大名電高等学校のチアガール出演があり大会に花を添えました。

大会運営については、リオオリンピック予選により準備開始時期が遅れ最後まで準備に追われました。また、日程的に役員確保にも困難をいたしましたが、3年連続開催の経験実績により競技役員の方々に随分助けていただきました。競技運営は準備不足ではありましたが関係皆様のご協力によりスムーズに流れたと思います。

この3年間の実績を無駄にすることなく今後の事業に生かしていきたいと考えております。

最後にご支援、ご協賛いただきました関係団体、関係各社、報道各社、また会場に足を運んでいただきましたファンの皆様に感謝を申し上げますと同時に今後の「日本選手権大会」益々の進化を願いまして大会総評とさせて頂きます。

男子優勝 トヨタ車体

トヨタ車体ブレイヴキングス監督 酒巻 清治

12月22日（火）から開催された第67回日本選手権大会において4年ぶり2回目の優勝を飾ることができました。今回は優勝までのプロセスをご報告させて頂きます。

今シーズンは通常のシーズンと違い、社会人選手権の早期開催（5月）、和歌山国体の日本代表選手不出場（10月）、オリンピック予選（11月）、といった状況下でフルメンバーでのチーム強化は困難、ただし若手と小グループの強化については逆に時間が取れると、シーズン当初よりある程度の覚悟を決め中堅若手のレベルアップを図ってきました。厳しい状況下での試合経験が選手個々を鍛えチーム力の底上げを図ることができたことが、今大会の結果に大きな影響を及ぼしたものと思われます。そんな中アジア予選を闘った代表メンバーが合流、故障者の復帰もタイミングよく、ようやくチームとしてあらためて公式戦に臨んだ大会、いわば「今シーズンスタートの公式戦」が日本選手権となったわけです。

初戦の早稲田大学戦、気持ちと体がアンバランスな状態が長かったことと監督の指示が個人のパフォーマンスに特化しすぎたため、東江・川島といった個人技術の優れた選手に手を焼く形となり、あまり納得のできるスタートではありませんでした。ただし、この初戦から学んだことも多く、特に準決勝・決勝に向け「DFシステムの徹底・Discipline（規律）の統一」を再確認することができました。準決勝の大崎電気戦はまさしくDF（バックチェック含め）面の改善が奏功した形となりました。個々の勝負を仕掛けては到底勝ち目のない相手に対し、チーム全体で一つのボールを守ることを徹底することができたのは大きかったと思います。決勝の相手はここ一番で圧倒的な集中力を見せる大同特殊鋼。日韓の代表ライン２人（朴・加藤）は大変な脅威でしたが、ある意味大変楽しみでありました。彼らとフェアーに勝負することで「自分たちに足りないところ」「自分たちが成長している部分」が明確になるからです。ただ、この試合良くも悪くも流れを作ったのは攻撃でした。特に後半中盤以降の拙攻は今後の大きな課題です。

最後に、会社創立70周年の節目の年に朗報を届けることができたこと、ここまで対戦したチームにパフォーマンスで応えることができたこと、選手たちはよく頑張ってくれました。大変嬉しく思います。今回の優勝を糧にさらなるレベルアップを目指します。引き続きご支援ご声援賜れば幸いです。この誌面をお借りし優勝報告並びに大会運営に尽力いただいた地元愛知県協会はじめ関係各位への御礼とさせて頂きます。有難うございました。

女子優勝 北國銀行

北國銀行ハンドボール部主将 寺田 三友紀

始めに第67回日本ハンドボール選手権大会の開催にあたり、諸準備や大会運営等にご尽力いただきました日本ハンドボール協会並びに愛知県ハンドボール協会等、多くの関係者の皆様方へ心より感謝申し上げます。

日本代表４名が世界選手権のために約１か月間チームを離れ、合流したのは大会直前の12月18日、不安を抱えたままの大会入りでした。

２回戦は東海大学、準々決勝は富士大学との対戦でしたが、スタートから北國らしいディフェンスから速攻が冴えわたり、不安を吹き飛ばすような試合展開で勝利することが出来ました。

日本リーグ勢との対戦となった準決勝のソニーセミコンダクタ戦では、２連続失点を許し、追いかける展開でのスタートでしたが、ディフェンスが徐々に安定すると速攻での得点も増えて、終始リードを保った形で勝利し、決勝へつなげることが出来ました。

決勝では４年連続でのオムロンとの対戦となりました。前半はディフェンスが機能し、自分たちのハンドボールが展開できたことにより、５点リードで折り返しました。後半に入るとミスから失点を重ね、１点差まで詰め寄られる苦しい時間帯もありましたが、そこでチームが一つになり、ここぞという１本を決め、守り抜き、24対21で勝利し、実に22年ぶり３回目の優勝を飾ることが出来ました。

この優勝は私たちだけで成し遂げられたわけでなく、今まで長年にわたりご支援・ご声援を賜りました石川県ハンドボール協会、多くのサポーターの皆様方、ご父兄の皆様方、また、深山相談役・安宅頭取をはじめ役員・行員の皆様方の強力なバックアップ、そして、忘れられないのが今までの歴史を築いてくださったOGの先輩達の頑張りがあったからこそだと思います。改めまして、心より御礼申し上げます。

また、ご多忙にもかかわらず、会場まで足を運んで熱いご声援をいただいた皆様方にも重ねて御礼申し上げます。今回の優勝に満足することなく、応援して下さる皆様方に恩返しができるようにさらに精進を重ねてまいりますので、変わらぬご支援・ご声援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

試合結果

【男子】

▼1回戦

福岡大学（福岡）	24（13- 8, 11-13）21	香川クラブ（香川）
北陸電力（JHL）	32（16-11, 16-15）26	HC 岡山（岡山）
HC 岩手（岩手）	29（17-11, 12-17）28	藤代紫水高校（茨城）
日本体育大学（学連）	36（14-13, 22-15）28	HC 和歌山（和歌山）
早稲田大学（学連）	29（13- 9, 16-13）22	トヨタ紡織九州 レッドインパルス（佐賀）
FOG（千葉）	29（15-14, 14-10）24	関西学院大学（兵庫）
中部大学（愛知）	36（15-12, 21-13）25	氷見クラブ（富山）
浦和学院高校（埼玉）	44（24-12, 20- 9）21	湖陵クラブ（北海道）

▼2回戦

北陸電力（JHL）	27（13-15, 10 -8）26 (3-2 延長 0-2)	福岡大学（福岡）
HC 岩手（岩手）	32（15-15, 17-16）31	日本体育大学（学連）
早稲田大学（学連）	34（18-13, 16-13）26	FOG（千葉）
中部大学（愛知）	33（14- 9, 19-11）20	浦和学院高校（埼玉）

▼3回戦

トヨタ紡織九州 レッドトルネード（JHL）	32（18- 8, 14-13）21	北陸電力（JHL）
トヨタ自動車東日本（JHL）	33（21-12, 12-11）23	HC 岩手（岩手）
早稲田大学（学連）	38（19-15, 19-16）31	湧永製薬（JHL）
豊田合成（JHL）	43（19-15, 24-18）33	中部大学（愛知）

▼準々決勝

大同特殊鋼（JHL）	32（21-10, 11-16）26	トヨタ紡織九州 レッドトルネード（JHL）
琉球コラソン（JHL）	38（ 7-16, 21-12）36 (2-3 延一 3-2)（2-2 延二 3-1）	トヨタ自動車東日本（JHL）
トヨタ車体（JHL）	29（15-12, 14-15）27	早稲田大学（学連）
大崎電気（JHL）	39（20-15, 19-14）29	豊田合成（JHL）

【女子】

▼1回戦

東海大学（神奈川）	35（20- 7, 15-11）18	HC 長崎（長崎）
小松市立高校（石川）	29（13- 8, 16-10）18	関西学院大学（兵庫）
HC 岡山（岡山）	29（16-10, 13-14）24	福岡大学（福岡）
日本体育大学（東京）	27（11- 4, 16-14）18	大同大学（愛知）

▼2回戦

北國銀行（JHL）	32（20- 5, 12-10）15	東海大学（神奈川）
富士大学（岩手）	40（20- 4, 20- 8）12	北海道倶楽部（北海道）
三重バイオレット アイリス（JHL）	19（10- 7, 9-10）17	大阪体育大学（学連）
ソニーセミコンダクタ（JHL）	38（22-10, 16- 6）16	小松市立高校（石川）
広島メイプルレッズ（JHL）	42（24- 6, 18- 0）6	HC 岡山（岡山）
飛騨高山ブラックブルズ岐阜（JHL）	19（ 7- 5, 12-12）17	東京女子体育大学（学連）
香川銀行T･H（香川）	27（13- 9, 14- 8）17	HC 名古屋（JHL）
オムロン（JHL）	32（14- 4, 18-12）16	日本体育大学（東京）

▼準々決勝

北國銀行（JHL）	45（25- 8, 20- 8）16	富士大学（岩手）
ソニーセミコンダクタ（JHL）	19（11- 7, 8- 8）15	三重バイオレットアイリス（JHL）
広島メイプルレッズ（JHL）	22（ 9- 9, 8- 8）21 (1-1 延一 2-2)（0-1 延二 2-0）	飛騨高山ブラックブルズ岐阜（JHL）
オムロン（JHL）	23（11- 6, 12-12）18	香川銀行T・H（香川）

【男子】

▼準決勝

大同特殊鋼　27（12 － 8, 15 － 15）23　琉球コラソン

〈戦評〉地元大同特殊鋼と昨日第2延長までの熱戦を繰り広げた琉球コラソンとの1戦はひと時も目を離すことのできない熱い試合となった。前半、先取点をあげたのは琉球コラソン。連がシュートを決めると、大同も朴が決めすぐに追いつく。その後も地元の大声援を背に大同が一気に流れをつかむ。前半13分7対2となったところでコラソンがタイムアウトを要求。コラソンがDFをハーフコートマンツーに変えると、大同の得点が止まる。その間に棚原、村山がディスタンスシュートを決め、点差を詰めていく。ここで追いつきたいコラソンだったが、棚原、連が退場してしまい、12対8と大同4点リードで前半を折り返す。

後半、退場者が戻るとコラソンのハーフコートマンツーDFが機能し大同が攻め切ることができない。その間にコラソンは相手のミスからの速攻などで得点を重ね、ついに後半11分に16対16の同点に追いつく。その後はお互い一歩も譲らない一進一退の攻防が続く。後半23分コラソンがタイムアウトのあと、同点に追いついた時から0－6DFに変えていたDFをハーフコートマンツーに変えると試合が動き始める。大同武田のフリースローからのディスタンスシュート、GK久保の好セーブなどがつながり、大同がリードを広げていく。このリードを守り切った大同が27対23で勝利、決勝に駒を進めた。

トヨタ車体　28（15 － 10, 13 － 13）23　大崎電気

〈戦評〉3連覇を狙う大崎電気と現在日本リーグ1位のトヨタ車体の1戦はトヨタ車体GK甲斐の好セーブが光る1戦であった。前半、立ち上がりからどちらも1歩も譲らない一進一退の攻防が続く。先に流れをつかんだのは車体。10分相手のミスからの速攻を藤本が決めると、高智もディスタンスシュートで続く。それにGK甲斐の好セーブもつながり、13分に8対4と4点差をつける。一方の大崎も18分にタイムアウトを要求し、その後宮﨑を投入。その宮﨑が自らの得点やアシストで攻撃を組み立て、流れをつくる。それからはまたどちらも譲らない攻防が続き、15対10と車体5点リードで前半を折り返す。

後半は立ち上がりから地元の大声援を得た車体が流れに乗る。5番11番で得点をあげると、DFではGK甲斐が好セーブを連発。4連続得点でリードをさらに広げる。大崎も宮﨑が速攻を決めると流れを取り戻す。東長濱などの得点で、徐々に点差を縮めていくが9点つけられた差はなかなか詰めることができない。一進一退の攻防の中、自チームに来た流れを逃さなかった車体が28対23で勝利を収め、リーグ戦の雪辱を果たす形となった。

▼決勝

トヨタ車体　26（16 － 11, 10 － 14）25　大同特殊鋼

〈戦評〉2015年を締めくくる全日本選手権決勝は、地元勢同士の対戦。大同は5年振り、車体は4年振りの優勝を狙う。会場を埋め尽くす

大応援団と、割れんばかりの声援を背に車体のスローオフで試合開始。大同は千々波をトップに置いたアグレッシブなDF。そのDFを切り裂くように、車体木切倉のカットイン、速攻と高智のミドルで4連取する。前半6分車体4対0とリードするが、藤田が退場してしまう。このチャンスを逃すまいと、同が反撃に出る。前半11分大同は加藤、朴のダブルポストに。徐々に攻撃のリズムがかみ合い、藤江、石橋、朴らの活躍で2点差に詰め寄る。しかし車体は慌てない。セットではコートを広く使い、石戸、津屋、GK甲斐の好セーブから藤本の速攻と突き放す。16対11車体のリードで前半を終了。

後半車体はタイムアウトを挟み5連取し21対12と引き離すが、大同山城のサイド、野村、藤江のミドルで21対16と4連取し食らいつく。その後車体は約10分間無得点の苦しい時間帯が続く。その間に大同は杉本、野村、藤江らの活躍で後半28分、26対25の1点差に。ここで車体はタイムアウトを要求。両チーム残り1分10秒のゲームプランを確認。石戸のシュートは枠外に、残り時間40秒大同マイボール、しかし車体の高い壁が立ちふさがる。大同はノータイムスリースローに全てをかける。このシュートを車体DFは体を張ってブロックし、優勝の喜びを爆発させた。最後まで目が離せない素晴らしい試合であった。

【女子】

▼準決勝

北國銀行 34(16－6,18－8)14 ソニーセミコンダクタ

〈戦評〉試合開始早々、藤井のカットイン、ポスト諸岡のシュートによる得点によりソニーが2点リードで試合は始まる。ソニーは積極的に攻撃を仕掛けそのまま有利に試合を運びたいところだったが、GK寺田を中心にした北國銀行の堅いDFが機能し始め、八十島や塩田の速攻などによる5連取で5対2と3点リードの展開になる。ここでソニーは流れを変えるためタイムアウトを取り、直後に4番のカットインから得点し5対3とする。しかし再びGK寺田の好セーブがソニーの攻撃を阻み、河田、八十島、大山の速攻から着実に加点する北國銀行。横嶋のミドルシュートが決まり5連取し10対3となったところでソニーは二度目のタイムアウトをとる。ソニーは田中のステップインからのフェイントで11対5とするも、その後も北國銀行の堅いDFは崩れず、横嶋のクイックシュートや角南のカットイン、八十島のサイドシュートから加点、前半は16対16で折り返した。

後半開始直後、角南の速攻で17対6とした北國銀行だったが、ソニーは本多や諸岡、安倍が得点し、守ってはGK飛田の好セーブが連発、後半10分過ぎまで取って取られての展開で試合は進む。後半16分北國銀行角南がカットインで得点をしたところでソニーがタイムアウトを取るも後半19分ソニー本多が退場。その7mTを北國銀行河田が決め26対13とする。その後も6連取含め、速攻を中心に攻撃の手を緩めなかった北國銀行が34対14でソニーを下した。

オムロン 19(8－8, 11－9)17 広島メイプルレッズ

〈戦評〉オムロン澤田の鮮やかな速攻から始まったゲーム。メイプルは加須屋の7mTですぐ取り返す。お互いの堅いDFをなかなかくずせない中、メイプル眞継、木田の連続得点で5対2となったところでオムロンタイムアウト。その後メイプル塩見が退場となるが、7mTをメイプル毛利がナイスセーブ。オムロン川俣、松尾の得点で6対6と同点に。メイプル笠木の7mTをオムロン藤間がナイスセーブ。その後は、両チームともGKを中心とした堅いディフェンスで得点を許さず、8対8で前半を折り返す。

後半オムロン松尾、吉田の連続得点で流れをつかもうとする。対するメイプルは眞継のステップシュートで流れを渡さない。メイプル木田のブラインドシュートで11対11と追いついた後、オムロンは吉田の3連続シュートで14対11となり流れをつかむ。たまらずメイプルはタイムアウトを取る。メイプル加須屋の2連取で15対14となり1点差に迫る。しかしオムロン松尾、永田の得点で、追いつかせない。残り5分でオムロン吉田の退場も粘り強いDFで得点を許さない。メイプル笠木の速攻で、19対17。2点差まで詰めるもGK藤間を中心とした堅いDFのオムロンが決勝に駒を進めた。

▼決勝

北國銀行 24(13－8, 11－13)21 オムロン

〈戦評〉大会5連覇を狙うオムロンと、ここまで対戦相手を圧倒して勝ち上がってきた北國銀行との決勝戦。前半序盤、両チームとも足のよく動いた素晴らしいディンスでお互いのセットオフェンスを抑え込むと試合はロースコアの展開、10分を過ぎ、3対2と北國のリード。ここから試合の主導権を握っていったのは北國。河田がチャンスを確実に得点に結びつけると、オムロンバックプレーヤー陣への厳しいプレッシャーやGK寺田の好セーブも加わり、じわりじわりとオムロンを引きはなしにかかる。そして18分、北國は横嶋(彩)から始まる5連続得点に成功すると、22分には12対5とリードを一気に7点に広げる。対するオムロンも松尾のロング、カットインでこの試合初めての連続得点で反撃を図るが、北國の優位は動かず。前半は13対8、北國リードで折り返した。

後半立ち上がり、試合は一変してオムロンペース。オムロンは末吉のミドルを皮切りに怒涛の4連続得点、4分を過ぎ13対12と前半のビハインドを1点に縮める。対する北國は横嶋(か)が難しい体勢からのポストシュートを何度となく決め切る活躍でリードを保つ。その後も前半とは見違えるように躍動するオムロンの攻撃が続き、試合は互角の展開。19分、20対18と北國は2点リードしながらも退場者が相次ぎ苦しい試合展開。しかし試合の勝敗を左右する終盤23分、北國は苦しみながらも横嶋(か)、八十島、河田の3連続得点で23対18とリードを広げることに成功。追いすがるオムロンを振り切り24対21で22年ぶりの優勝を勝ち取った。

平成27年度第67回日本ハンドボール選手権大会【ブロック予選】

■北海道ブロック予選
日時：平成27年10月24日（土）・25日（日）
会場：札幌市・北海道大学第二体育館
【男子】
▼1回戦
札幌静修高校 21－15 小樽商科大学
湖陵クラブ 27－15 札幌月寒高校
▼決勝
湖陵クラブ 43－28 札幌静修高校
※湖陵クラブが本大会出場権獲得。
【女子】
※協会推薦：北海道倶楽部が本大会出場権獲得。

■東北ブロック予選
日時：平成27年11月20日（金）～22日（日）
会場：山形県湯沢市・湯沢市総合体育館、羽後町総合体育館
【男子】
▼1回戦
HC岩手 32－19 東北学院大学
山形新球会 26－18 学石クラブ
仙台大学 32－26 HC秋田
青森中央学院大学 26－22 福島大学
▼準々決勝
HC岩手 27－24 秋田大学
山形新球会 36－26 野辺地クラブ
仙台大学 32－21 上送
富士大学 36－14 青森中央学院大学
▼準決勝
HC岩手 25－18 山形新球会
富士大学 29－20 仙台大学
▼決勝
HC岩手 32－23 富士大学
【女子】
▼1回戦
仙台大学 34－12 北里大学
秋田大学 23－20 べにばなクラブ
HC秋田W 36－9 野辺地高校
東北福祉大学 30－12 石川クラブ
▼準々決勝
富士大学 22－13 仙台大学
秋田大学 30－29 湯沢高校
HC秋田W 37－28 羽後高校
不来方クラブ 28－21 東北福祉大学
▼準決勝
富士大学 25－13 秋田大学
不来方クラブ 27－24 HC秋田W
▼決勝
富士大学 25－21 不来方クラブ

■関東ブロック予選
日時：平成27年11月14日（土）・15日（日）
会場：栃木市・栃木市総合運動公園体育館、日立体育館
【男子】
▼Aブロック1回戦
浦和学院高校 32－31 法政大学
藤代紫水高校 29－28 栃の葉クラブ
▼Aブロック決勝
浦和学院高校 25－20 藤代紫水高校
▼Bブロック1回戦
甲府クラブ 38－25 かぶら送球会
FOG 30－13 HC YOKOHAMA
▼Bブロック決勝
FOG 38－22 甲府クラブ
▼第3代表決定戦
藤代紫水高校 30－29 甲府クラブ
※浦和学院高校、FOG、藤代紫水高校が本大会出場権獲得。
【女子】
▼Aブロック1回戦
日本体育大学 26－13 水海道第二高校
オレンジクラブ 23－21 REDS
▼Aブロック決勝
日本体育大学 25－11 オレンジクラブ
▼Bブロック1回戦
東海大学 25－21 サンライズクラブ
昭和学院高校 26－16 駿台甲府高校
▼Bブロック決勝
東海大学 30－22 昭和学院高校
※代表：日本体育大学、東海大学が本大会出場権獲得。

■北信越ブロック予選
日時：平成27年10月31日（土）・11月1日（日）
会場：福井県永平寺町・北陸電力福井体育館フレア
【男子】
▼1回戦
北志クラブ 30－25 HC新潟
▼準決勝
NaganoYeti 38－36 北志クラブ
氷見クラブ 29－21 金沢大学
▼決勝
氷見クラブ 40－19 NaganoYeti
※氷見クラブが本大会出場権獲得。
【女子】
▼1回戦
高岡向陵高校 51－4 柏崎高校
▼準決勝
高岡向陵高校 21－19 屋代クラブ
小松市立高校 26－14 JJ.GANG
▼決勝
小松市立高校 32－16 高岡向陵高校
※小松市立高校が本大会出場権獲得。

■東海ブロック予選
日時：平成27年10月18日（日）
会場：岐阜県多治見市・多治見市総合体育館
【男子】
▼1回戦
中部大学 21－19 HONDA
HC岐阜 30－14 清商クラブ
▼決勝
中部大学 28－20 HC岐阜
※中部大学が本大会出場権獲得。
【女子】
▼代表決定戦
大同大学 34－5 高山クラブ
※大同大学が本大会出場権獲得。

■近畿ブロック予選
日時：平成27年10月24日（土）・25日（日）
会場：京都府宇治市・山城総合運動公園体育館ほか
【男子】
▼予選リーグAゾーン
関西学院大学 27－22 HC彦根
HC彦根 20－17 天理大学
関西学院大学 25－14 天理大学
▼予選リーグBゾーン
HC和歌山 25－21 関西大学
関西大学 23－18 洛北クラブ
HC和歌山 29－16 洛北クラブ
▼代表決定1回戦
関西学院大学 27－26 関西大学
HC和歌山 27－19 HC彦根
▼決勝
関西学院大学 26－23 HC和歌山
※関西学院大学、HC和歌山が本大会出場権獲得。
【女子】
▼予選リーグAゾーン
関西学院大学 24－16 京都クラブ
京都クラブ 37－21 NTF立命館守山
関西学院大学 32－9 NTF立命館守山
▼予選リーグBゾーン
大阪体育大学 28－11 HC和歌山
HC和歌山 23－15 ナデシコクラブ
大阪体育大学 56－6 ナデシコクラブ
▼代表決定戦
大阪体育大学 46－12 関西学院大学
※大阪体育大学が本大会出場権獲得。

■中国ブロック予選
日時：平成27年11月21日（土）・22日（日）
会場：山口県・周南市キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター
【男子】
▼1回戦
下関クラブ 27－15 広島HC
下松クラブ 34－14 HC江津
日新製鋼 22－13 O・C
SFIDA山口 33－19 山陽高校
弓ヶ浜クラブ 27－18 Ost bitte
徳山クラブ 23－19 広島経済大学
▼準々決勝
HC岡山 31－16 下関クラブ
下松クラブ 25－18 日新製鋼
SFIDA山口 31－19 弓ヶ浜クラブ
徳山クラブ 27－25 総社クラブ
▼準決勝
HC岡山 21－19 下松クラブ
SFIDA山口 25－17 徳山クラブ
▼決勝
HC岡山 33－28 SFIDA山口
【女子】
▼1回戦
広島大学 20－13 ORANGE BIRD
徳山クラブ 19－18 山陽高校
▼準決勝
HC岡山 35－14 広島大学
徳山クラブ 16－9 岡山クラブ
▼決勝
HC岡山 23－18 徳山クラブ

■四国ブロック予選
日時：平成27年9月12日（土）・13日（日）
会場：香川県高松市・高松大学体育館
【男子】
▼リーグ戦
香川クラブ 33－22 香川中央高校
香川中央高校 21－20 高松大学
香川クラブ 30－27 高松大学
※香川クラブが本大会出場権獲得。
【女子】
▼代表決定戦
香川銀行T・H 21－16 高松商業高校
※香川銀行T・Hが本大会出場権獲得。

■九州ブロック
日時：平成27年9月20日（日）・21日（月）
会場：福岡市・福岡大学第二記念会堂ほか
【男子】
▼予選リーグXブロック
宮崎フェニックス 31－15 名桜大学
HC大分 24－18 長崎社中
宮崎フェニックス 23－18 長崎社中
HC大分 34－16 名桜大学
長崎社中 29－17 名桜大学
宮崎フェニックス 32－22 HC大分
▼予選リーグYブロック
福岡大学 36－18 HC熊本
トヨタ紡織九州 30－24 Various鹿児島
福岡大学 35－16 Various鹿児島
トヨタ紡織九州 32－24 HC熊本
Various鹿児島 31－27 HC熊本
福岡大学 31－21 トヨタ紡織九州
▼代表決定戦
トヨタ紡織九州 31－25 宮崎フェニックス
福岡大学 33－20 HC大分
※福岡大学、トヨタ紡織九州が本大会出場権獲得。
【女子】
▼予選リーグαブロック
コスモビッキーズ 26－17 宮崎クラブ
ninfa・kagoshima 25－23 神埼クラブ
コスモビッキーズ 24－17 神埼クラブ
ninfa・kagoshima 24－20 宮崎クラブ
神埼クラブ 32－18 宮崎クラブ
コスモビッキーズ 16－16 ninfa・kagoshima
▼予選リーグβブロック
福岡大学 31－14 熊本クラブ
HC長崎 25－13 名桜大学
福岡大学 25－13 名桜大学
HC長崎 25－18 熊本クラブ
名桜大学 22－21 熊本クラブ
福岡大学 29－16 HC長崎
▼代表決定戦
HC長崎 22－19 コスモビッキーズ
福岡大学 26－24 ninfa・kagoshima
※福岡大学、HC長崎が本大会出場権獲得。

生産

より良い製品づくりで
お客様の満足をを
「創造」

トヨタ紡織九州は、
より良い未来を
「創造」します。

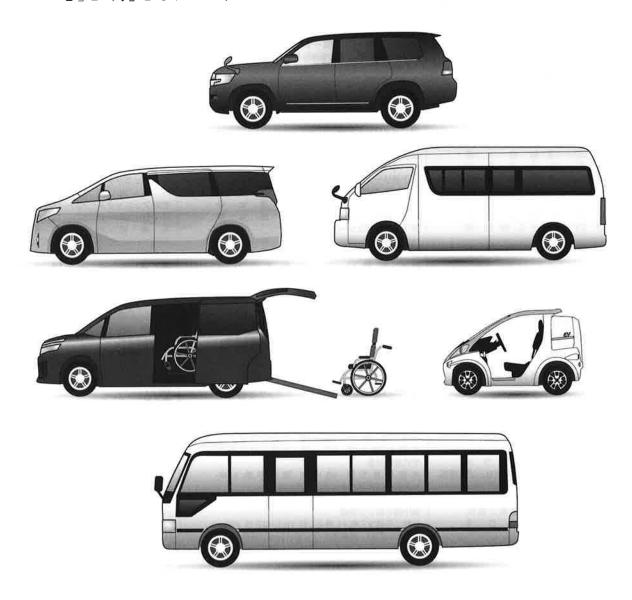
社会

良き企業市民として
世界・地域の元気を
「創造」

環境

子供たちの未来のために
安心できる地球を
「創造」

〒842-0107 佐賀県神埼市神埼町鶴1600番地 TEL0952-52-7111(代表) FAX0952-52-7090 http://www.tb-kyushu.co.jp

日時：2015 年 11 月 7 日（土）～ 11 日（水）
会場：函館アリーナ、函館大学体育館、函館大学付属有斗高等学校体育館

高松宮記念杯男子第 58 回・女子第 51 回
平成 27 年度 全日本学生ハンドボール選手権大会

最終順位

■男子

優　勝：日本体育大学（関東）
準優勝：早稲田大学（関東）
3　位：日本大学（関東）
　　　筑波大学（関東）

■女子

優　勝：大阪体育大学（関西）
準優勝：東京女子体育大学（関東）
3　位：筑波大学（関東）
　　　大阪教育大学（関西）

8 点共【写真提供】スポーツイベント社

個人表彰

■男子

〈優秀選手賞〉
小山哲也（日体大）
金丸拓矢（日体大）
友兼尚也（日体大）
桐生正崇（早稲田）
東江雄斗（早稲田）
原　健也（日本大）
田中　圭（筑波大）

〈特別賞〉
大橋　慶（日体大）
川島悠太郎（早稲田）

〈優秀監督賞〉
松井幸嗣（日体大）

■女子

〈優秀選手賞〉
秋山なつみ（大体大）
佐々木春乃（大体大）
北原佑美（大体大）
馬場敦子（大体大）
亀田潮里（東女体）
石井優花（東女体）
堀川真奈（大教大）

〈特別賞〉
谷　華花（大体大）
岩﨑成美（筑波大）

〈優秀監督賞〉
楠本繁生（大体大）

総　評

北海道学生ハンドボール連盟副理事長　武井 昭也

高松宮記念杯男子第58回・女子第51回平成27年度全日本学生ハンドボール選手権大会は平成27年11月6日から11月11日まで函館アリーナ・函館大学体育館・函館大学付属有斗高等学校体育館を会場に開催された。男子日本体育大学、女子大阪体育大学が全国の大学男子258チーム女子137チームの頂点に立つまでの大会概要を報告する。

開会式は試合に先立ち6日夕刻から、本年8月に新装された函館アリーナにおいて男子32チーム女子32チーム計64チーム2200名の選手団が参加して行われた。歓迎のピアノ演奏と藤原侑大会委員長の朗々たる国歌独唱が緊張感のなかにもさらに闘志を鼓舞させ、日本ハンドボール協会専務理事川上憲太様と全日本学生ハンドボール連盟副会長福地賢介様の熱いメッセージのこもったご挨拶、函館市長工藤壽樹様の歓迎のことばに続き、函館大学主将鹿子島京美くんの選手宣誓に函館出身のピアニスト伊藤亜希子さんの演奏とR dance companyによる歓迎パフォーマンスが華を添え、五日間にわたる各地区代表の戦いが幕をあけた。

第二延長までもつれる試合や僅差の試合が続き、シード校が敗れる波乱の中で、男子は中京大学・日本大学・関西学院大学・日本体育大学・大同大学・早稲田大学・朝日大学・筑波大学がベストエイトに名乗りを上げ、女子は大阪体育大学・桐蔭横浜大学・関西大学・筑波大学・大阪教育大学・日本体育大学・富士大学・東京女子体育大学がベストエイトに勝ち上がった。

女子準決勝は大阪体育大学対筑波大学、東京女子体育大学対大阪教育大学戦となった。大阪体育大学が前半大量リードを維持し決勝に、また、東京女子体育大学も前半リードを辛くも守り抜き、決勝に進出した。

男子準決勝は日本大学対日本体育大学、早稲田大学対筑波大学という関東勢の対戦となった。日本大学も善戦したが日本体育大学の守りから速攻の流れを止められず、日本体育大学が勝利した。早稲田大学対筑波大学は30対30から延長戦となったが、それまでの勢いのまま早稲田大学がリズムよく試合をつくり決勝に進んだ。

決勝戦女子は大阪体育大学が前半13点後半17点に対し、東京女子体育大学は前半11点後半10点であった。大阪体育大学は第47回大会優勝後、第49回第50回に引き続き三連覇を果たした。男子は一進一退の展開で後半残り5分まで競り合い、早稲田大学の粘りに対し33対29で日本体育大学が接戦を制して3年ぶり23回目の優勝を手にした。

優勝・準優勝の男子日本体育大学・早稲田大学・女子大阪体育大学・東京女子体育大学は12月22日から愛知県で開催される日本選手権大会への出場権が与えられた。

閉会式では全日本学生ハンドボール連盟迫本淳一会長はじめ、福地賢介副会長、全日本学生ハンドボール連盟理事・北海道学生ハンドボール連盟松喜美夫理事長、日本ハンドボール協会小越康雄理事、全日本学生ハンドボール連盟藤原侑理事長、函館ハンドボール協会立蔵義春会長、全日本学生ハンドボール連盟吉田久士理事、全日本学生ハンドボール連盟理事・関東学生ハンドボール連盟藤村孝司理事長から優勝校・準優勝校・第参位校各選手にメダルが授与され、個人表彰の優秀監督は大阪体育大学楠本繁生氏と日本体育大学松井幸嗣氏に授与された。優秀選手は別記の通りである。

なお、今大会でもドーピング検査が実施された。選手の理解も深まり問題なく終了した。また、審判員の黒木龍二氏と冨田拓氏、野平健二郎氏が審判定年を迎えられ、主管の北海道学生連盟松喜美夫理事長から感謝状と副賞が授与された。

本大会期間中、日本ハンドボール協会トレーナー部門北海道ブロック委員菊池拓氏他スタッフによる対応数はドーピング相談11、ストレッチ4、テーピング29、応急処置5、トレーニング相談1あり、緊急の判断対応も含め多岐にわたり対応していただいた。

来年度の全日本学生ハンドボール選手権大会は11月19日から23日まで、アスティー徳島を主会場に開催される予定である。

男子優勝 日本体育大学

日本体育大学コーチ　生川 岳人

平成27年11月7日から11日まで北海道函館市で行われた全日本学生ハンドボール選手権大会で、3年ぶり23回目の優勝することが出来ました。函館市での全日本学生選手権大会は1991年・1999年・2007年と過去3回の優勝は日本体育大学で、4連覇のかかった大会という事もあり、プレッシャーを感じていた部分もありました。私がコーチに就任し、初めて優勝を経験することができ、非常に嬉しく、思い出に残る大会となりました。今回の結果は、主将を中心とし、選手達の頑張りがあったからこそ勝ち取れた優勝だと思います。

今年の関東学生春季リーグでは3位、秋季リーグでは2位という悔しい結果でした。春リーグで出た課題を修正するため、様々な練習を取り入れ練習を重ねましたが、秋リーグでも接戦した状況で勝ちきれない試合が続き、春リーグから1つ順位を上げ2位となったものの、納得のいく結果とはとても言えませんでした。秋リーグで出た課題を修正するため、

【写真提供】スポーツイベント社

【写真提供】スポーツイベント社

全日本学生選手権大会まで短い期間ではありましたが、出来る限りの練習をし、秋リーグから比べ少しではありますが、全体の調子が上がった状態で大会に臨みました。そんな矢先、大会中に怪我人が出るという想定外のアクシデントもあり、正直なところ非常に不安な中での日々でした。しかし、そんな中でも、どのチームにも負けないぐらい年間を通して走り、試合の終盤でも走り負けない自信が選手達にもあったと思います。これもしっかりと選手達が練習の意味を理解しトレーニングを積み重ね、一人一人が自信を持って大会に臨み、去年、一昨年と決勝の舞台に立つことが出来なかった悔しい想いが、今年の優勝という結果に繋がったと思っています。

今まで支えて下さった保護者の皆様をはじめ、日本体育大学関係者の方に深く感謝をし、日本体育大学の伝統である「走るハンドボール」をこれからも継承し、日本ハンドボール選手権大会での優勝を最終目標に掲げ、日々の努力を忘れず、今後も皆様のご期待に応えられる様に頑張っていきますので、引き続きご声援宜しくお願い致します。

女子優勝 大阪体育大学

【写真提供】スポーツイベント社

大阪体育大学女子ハンドボール部　苧野 祐子

3 連覇の喜び

「3 連覇」したいという強い気持ちを持ち、新チームがスタートしました。

今年のチームは、下級生がコートに立つ事が多くなるということは新チームがスタートする前から分かっていました。そして 1 年間楠本先生に言われ続けてきた事が、「コミュニケーション力」です。今どういうプレーをしたかったのか、どうしてほしかったのかなど、人の気持ちを理解するには会話をするしかありません。昨年に引き続き、会話を意識する事を目的に練習終わりには、少人数のグループに分かれ、学年の垣根を超えて会話をする時間を設け、また、チーム全員が意見を出しやすいように、ポジションごとに分かれるなど、その時に応じたグループミーティングを積極的に行いました。

今年も年代別（U-18、U-20、U-22、ユニバーシアード）の世界大会が開催され、大阪体育大学から計 8 名の選手が選出され、世界大会に参加しました。大変喜ばしいことですが、それに伴い、主力選手不在の期間が長く、また、怪我人が多く出たこともあり、例年に比べチームでまとまって練習することが本当に少なかったと思います。そんなこともあり、春季リーグ・西日本大会・秋季リーグでは優勝したものの、自分たちの納得のいく内容で大会を終える事が出来ず、本当にインカレで勝てるのかという不安が募るばかりで、一人一人に焦りさえ見えました。

そして迎えた函館インカレ。初戦の仙台大学戦、2 回戦の福岡教育大学戦と順調に勝ち進み、3 回戦の桐蔭横浜大学戦、もたつきはしたものの何とか勝利し、準決勝に駒を進めました。準決勝の相手は関東 2 位の筑波大学。昨日の反省を生かし、スタートから気を引き締めて戦った結果、相手のミスにも助けられ、その分自分達の持ち味が出せた試合でした。そして迎えた決勝戦。相手は関東 1 位の東京女子体育大学。前半は互角の戦いでしたが、後半の立ち上がりから体大のペースで試合を運ぶことができ、この 1 年間目標としてきた優勝を勝ち取ることが出来ました。試合終了前からカウントダウンが始まり、試合終了のブザーが鳴り響くと、みんな誰となしに抱き合いました。「楠本先生を胴上げする」「3 連覇する」という願いが叶った瞬間でした。

昨年の優勝から 1 年。自分たちに自信を持つことが出来ず、また 3 連覇というプレッシャーと重圧は想像以上のもので本当に苦しい 1 年でした。しかし、最後は楠本先生について来て本当に良かったと思いました。

最後になりましたが、すばらしい体育館でプレー出来たこと、温泉旅館で地元の人のおもてなしをたくさん頂けたこと、本当に多く思い出を作ることが出来ました。
また、大会運営にご尽力頂きました関係者各位の皆様に厚く御礼申し上げます。

戦評

男子

■準決勝

日本体育大学　31（14－13、17－11）24　日本大学

日本体育大学のスローオフで試合開始。日本体育大学佐藤のゴールで先制点を奪う。その後もお互いに点を取り合い拮抗したゲーム展開となる。日本大学はパスカットから速攻に繋げるが、日本体育大学友兼のセーブに何度もチャンスを活かせない。日本体育大学は点差を離しにかかるが、日本大学の3-3ディフェンスに阻まれる。27分日本大学小西のゴールで同点に追いつく。日本体育大学は福田のゴールで勝ち越して14対13で前半を終える。

2分、日本大学に7mTのチャンスが与えられるも、日本体育大学友兼のセーブで同点を許さない。その後も日本大学は積極的にゴールを狙うも、なかなか点が決まらず、逆に日本体育大学は速攻で点差を広げてゆく。日本大学は水町、小澤を中心に攻撃を組み立てるが、お互いに譲らない展開。日本大学は大事な場面でミスが多くなり、シュートまでなかなかいけない。日本大学は23分にタイムアウトを取り流れを変えようとするが、ここでも日本体育大学友兼がそれを許さない。25分を過ぎても日本体育大学の速攻は衰える事なく展開される。そして60分間の戦いは31対24で日本体育大学が勝利し、函館インカレ4連覇に王手を掛けた。

早稲田大学　42（17－15、13－15、延長4－1、8－2）33　筑波大学

早稲田大学のスローオフで試合開始。先制は早稲田大学川島のサイドシュート。早稲田大学はディフェンスから速攻でペースを掴むと、東江の連続得点などで点差を広げた。7分で7対5と点差をつけられた筑波大学はタイムアウトを申請。その後筑波大学は田中、徳田らが点を決め点差を徐々に縮めた。前半終了間際に筑波大学瀬川のステップシュートが決まり17対15と2点差につめて前半を折り返した。

後半立ち上がりは拮抗した展開となった。両チームのゴールキーパーが好セーブを連発。7分に筑波大学徳田が連続で同点、逆転ゴールを決めた。この後一進一退の攻防が続き、両者譲らない展開に。しかし早稲田大学が攻守をみせ3連続得点で引き離す。筑波大学はタイムアウトを取ったが、直後に点を決められ4点差にされた。筑波大学は徐々に点差を詰め、田中の得点で1点差までつめた。しかし、27分に早稲田大学東江が7mTを決め2点差とする。その後筑波大学田中が1点差として、残り5秒で筑波大学服部が同点ゴールを決め30対30とし延長に突入。

延長前半早稲田大学の3連続得点で差を広げる。一方筑波大学は果敢に攻めるも、早稲田大学中野の好セーブにより得点できない。しかし終了間際、筑波大学小柳がゴールを決め4対1で延長前半を終える。延長後半が始まっても早稲田大学の勢いは収まらない。川島、伊舎堂の得点などで差を広げる。筑波大学は冷静さを失ってしまい、早稲田大学GKの好セーブも連発し得点が伸びない。その後も組織としての動きが出来ずに、早稲田大学に連続失点をしてしまう。終わってみると9点もの大差をつけて早稲田大学が勝利した。この試合を通して早稲田大学川島は14得点の大活躍をみせた。明日の決勝で2年ぶり5度目の悲願に向けての準備は整った。

■決勝

日本体育大学　33（17－16、16－13）29　早稲田大学

函館インカレ負けなしで昨年の2回戦敗退の屈辱から這い上がってきた3年ぶり23度目の優勝を狙う日本体育大学と、春、秋の関東リーグ戦で思うような結果が出せず苦しいシーズンだったが、今年のインカレでは他を寄せ付けない圧倒的な強さで決勝まで駒を進め、2012年の福岡インカレの雪辱に燃える早稲田大学の頂上決戦。日本体育大学のスローオフで試合開始。開始40秒日本体育大学福田のシュートが先制点となる。立ち上がり打ち合いになるも、日本体育大学の得意のディフェンスから速攻でリードを広げる。しかし早稲田大学も東江を中心に、伊舎堂などの得点で一進一退の攻防に。2点リードされ早稲田大学は11分にタイムアウトをとる。桐生、東江などの得点で追い上げるが、日本体育大学の速いリスタートで寄せ付けない。19分早稲田大学は東江のゴールで逆転に成功するが、直後に日本体育大学福田から金丸へのスカイプレーが決まり同点とし会場をわかせる。20分過ぎに日本体育大学は早稲田大学東江にマンツーマンディフェンスをつける。早稲田大学は28分福岡の逆転ゴールが決まると、日本体育大学はタイムアウトを申請。その後日本体育大学は金丸、比嘉の連続得点で17対16で前半を終える。

後半開始、早稲田大学川島の7mスローで逆転するも、直後に日本体育大学大橋のゴールで追いつく。早稲田大学は連続得点でリードを広げるが、日本体育大学も友兼のセーブから流

戦　評

れを掴み、7分には金丸から比嘉へのスカイプレーが決まり、またも会場をわかせる。早稲田大学は川島などの得点で粘るが、日本体育大学は金丸の連続ゴールでまたも逆転する。14分に日本体育大学康本が2分間退場の隙に、早稲田大学伊舎堂のゴールで同点に追いつく。21分日本体育大学大橋の連続得点で2点差とされると早稲田大学はタイムアウトをとる。22分早稲田大学は東江のゴールで同点に追い付く。逆転を狙う早稲田大学だが、日本体育大学友兼が連続セーブで阻止する。その後も日本体育大学の速攻は衰えることなく続きリードを広げていった。60分の熱戦を終えるブザーがなると、33対29で日本体育大学が3年振り23度目の優勝を決めた。両校共に素晴らしいゲームとなった。これで日本体育大学は函館インカレ4連覇を達成し、函館不敗神話をまた新たに作りあげた。

女　子

■準決勝

大阪体育大学　33（21－5、12－13）18　筑波大学

筑波大学のスローオフで試合開始。大阪体育大学佐々木のゴールで先制する。筑波大学も得点するが連続失点で6分にタイムアウトをとる。直後に筑波大学に7mTが与えられるも大阪体育大学森村のセーブで得点できず。その後も筑波大学は連続失点、得点もとれずに12分に2枚目のタイムアウト。大阪体育大学は速攻やディフェンスの空いたスペースを上手く使い、着々と得点をかさね、前半を21対5でリードして折り返した。

後半開始、筑波大学関澤の連続セーブで粘りをみせる。9分大阪体育大学木村の2分間退場から流れを掴みたい筑波大学だが、大阪体育大学の粘り強いディフェンスからなかなか連続得点を奪えない。19分筑波大学は最後のタイムアウトをとる。その後はお互いに点を取り合い、33対18で大阪体育大学が決勝へと進んだ。大阪体育大学佐々木、北原がそれぞれ9点ずつとる活躍をみせた。

東京女子体育大学　21（15－10、6－10）20　大阪教育大学

東京女子体育大学ボールでスローオフ。先制点は大阪教育大学村松の得点。大阪教育大学はミドルシュートやロングシュートがよく決まっていた。16分に東京女子体育大学が一点差に詰めてきたところでタイムアウト。直後の攻撃で大阪教育大学村松のロングシュートで2点差とする。しかし東京女子体育大学も粘り強いディフェンスから速攻で、19分には同点に追いつき、20分には東京女子体育大学三田の得点で逆転。その後も東京女子体育大学は得点を量産し、15対10で前半を折り返した。

後半は序盤、点の取り合いとなった。途中から東京女子体育大学のミスが続き大阪教育大学が得点を重ね一点差まで詰め寄った。東京女子体育大学は7mTを獲得するも得点できず点差をつけることができない。しかし終盤は両チームともシュートが決まらず21対20で試合終了。東京女子体育大学が決勝進出を決めた。

■決勝

大阪体育大学　30（13－11、17－10）21　東京女子体育大学

決勝は3年連続4回目の優勝を狙う大阪体育大学と6年ぶり17回目の優勝を狙う東京女子体育大学との対決となった。前半は東京女子体育大学のスローオフで試合開始。先制は東京女子体育大学石井の得点。立ち上がりから両チームとも一歩も譲らない展開となった。ゲームが動いたのは23分。大阪体育大学がペナルティーを獲得。これを佐々木が決め2点差とし、さらに秋山がゴールを決め3点差とリードを広げた。その後東京女子体育大学が1点を追加して13対11で大阪体育大学が2点リードのまま前半終了。

後半は大阪体育大学佐々木の2連続得点でスタート。そこから大阪体育大学は5点を追加し9点差とした。流れを変えたい東京女子体育大学は13分に7mTを獲得。これを石井がゴールを決め、さらにパスカットから石井がゴールを決めた。川畑のロングシュートなども決まっていたが東京女子体育大学の反撃もここまで。大阪体育大学のかたい守りを打開できずシュートがはいらない。大阪体育大学はこのまま逃げ切り3年連続4回目の優勝を果たした。

インカレ初出場校 札幌国際大学（女子）

監督 武井 昭也

1．部発足の歴史

本学は1969（昭和44）年に札幌静修短期大学として開学し、1999（平成11）年に男女共学となりました。女子教育と保育者養成で一定の評価をいただき発展してきた大学です。現在は短期大学部に総合生活キャリア学科、幼児教育保育学科と、人文学部、観光学部、スポーツ人間学部の三学部六学科からなる大学です。スポーツ人間学部開設にともなって体育施設が充実し、40メートルのハンドボールコートが計画されたことからハンドボール部を作りたいという学生有志の要望で活動がスタートしました。

2007（平成19）年4月に男子・女子ともに同好会としてスタートし、本年度が創部9年目に当たる歴史の浅いヨチヨチ歩きの部です。同年秋には部に昇格して活動を開始しましたが、当初は多くが未経験の部員でルールの確認や基本練習に明け暮れる状況でした。

部に昇格して北海道学生ハンドボール連盟に加盟し、男子は四部、女子も二部からのスタートでしたが、2012（平成24）年春季リーグ戦で女子は念願の一部優勝、男子も今年度春季リーグ戦二部優勝し一部に昇格することができました。現在は強化指定部としてコーチにも加わって頂くことができ、女子17名、男子23名で活動しています。

2．出場への道筋

今年度は春季リーグ戦で優勝したものの故障者や精神面の弱さから課題も多く、また、例年のことですが、保育者養成課程の実習などで練習に選手が揃わない時期もあり、二度目となる8月の東日本インカレでは走りきることと他大学のチームに学ぶという姿勢で臨みました。念願の一勝を挙げることができ、選手の意識も少し変わってきたように感じます。

今季の秋季リーグ戦は10月1日から旭川総合体育館で開催されました。小樽商科大学に30対9、東海大学に24対13、北海道教育大学岩見沢校に29対18、道都大学に26対14、北海道教育大学旭川校に20対16と終わってみれば順当に勝利して優勝することができましたが、最終戦の北海道教育大学旭川校にはリードを許し、シーソーゲームの末に逆転するという落ち着かない展開でした。応援に駆けつけてくれた卒業生の声援と積極的なディフェンスからの速攻でリズムが変わり、相手キーパーの好キープに悩まされていたサイドシュートやセンターからのロングシュートが決まっての勝利でした。

一部得点王と最優秀選手には幼児教育保育学科2年の後藤美咲が、優秀選手にはスポーツビジネス学科4年田中沙樹、心理学科2年山千尋、スポーツ指導学科1年安藤栞が選ばれましたが、マネージャーを含めた全員のチームワークで獲得した勝利だったと感じています。もう一つの勝因は今年度から副顧問として勝利の女神が加わったことでしょうか。

歴史の浅い部ですが、本学の手厚い支援とOB・OGの応援があり、コーチとしてサポートして下さった皆さまや高校の先生方、札幌協会、北海道協会の皆さまのご支援で全日本インカレまでたどり着けたことに感謝しています。

3．大会での抱負

チームの特徴はまず明るいこと、部員のコミュニケーションが良いことです。お互いをいたわり、お互いに信頼できるチームを作ろうということを心がけています。また、試合でのプレーは練習でしか作られないこと、練習で鍛え試合で楽しもう、自分の限界を決めず挑戦しよう、試合はずっと続く、ハンドボールの経験がこれからの人生のより豊かな糧になる、仲間を大切にして、挨拶と整頓を心がけ、全体を見る目を養おう、といったことを日頃から話しています。

全日本学生選手権大会は初出場ですので、まずは全国の代表チームのプレーを直接見て、感じて、これからの活動に活かして行くことを目標に、走りきること、勇気を持って戦うこと、できるならば勝利を、と願っています。

（写真：平成27年10月4日北海道学連主催秋季リーグ戦閉会式を終えて）

インカレ初出場校 環太平洋大学（男子） 監督 前田誠一

この度、環太平洋大学男子ハンドボール部は、第54回中四国学生ハンドボール選手権秋季リーグにて、念願の初優勝を果たし、全日本学生ハンドボール選手権大会の出場権を獲得する事ができました。これも偏に岡山県ハンドボール協会をはじめ、ご支援、ご協力頂いた保護者の方々、合宿を受け入れ、強化、指導して下さった実業団関係者の皆様のおかげだと感謝しております。心より厚く御礼申し上げます。

環太平洋大学は、2007年4月、岡山市において中・四国初の体育大学として開学しました。「教育とスポーツの融合」を基本理念とし、教育・スポーツの両面を通じて、健全で豊かな人格を備えた教育者・指導者を輩出することにより、社会に貢献することを目的としています。体育会16クラブの1つ、体育会男子ハンドボール部は、2007年4月の大学設立と同時に創部され、今年で8年目となります。学生の本分である学業を怠ることなく文武両道で部活動に取り組んでいます。

2012年4月、大崎電気工業にて現役を引退し、同年5月に藤本元（現筑波大学男子ハンドボール部監督）先生の後を引き継ぎ、監督として着任させていただきました。新天地岡山、そして監督初年度。学生にハンドボールを指導出来る環境を与えていただいた感謝の気持ちと期待で胸がいっぱいでしたが、実際、苦しい事の連続でした。選手と監督との違いに戸惑い、悩む日々が続きましたが、恩師松井先生（日本体育大学）、岩本先生（浦和学院高校）をはじめ、現役時代に大変お世話になった関係者の皆様のご協力により、指導者の在り方を勉強させていただきました。毎年2月には、関東遠征、7月には名古屋遠征を行い、現役の日本代表選手や、実業団の選手との合同練習、強豪大学との練習試合を受け入れていただき、チームにとっても、指導者としても、大変貴重な経験をさせていただいております。また、昨年11月には、第三体育館（ハンドボールコート2面）が竣工し、全国各地から強豪高校、大学、クラブチームと共に週末には合宿を行い、着実に力をつける事が出来たと感じています。

負けたら4年生が引退してしまう秋リーグ。会場には、毎年大勢の卒業生達が、在学時に達成できなかった、中四国学生秋リーグ優勝の瞬間を見届けるために、全国各地から応援に駆けつけ、気持ちの伝わる言葉を送ってくれます。あとから聞いた話ですが、今年の全日本インカレ開催地が、私の地元北海道（函館）と言う事もあり、学生達の間では、「錦を飾らせたい」という思いが芽生えていた様です。ルーズボールに対する気持ち、攻撃でミスした後のバックチェックの姿勢を見ると、学生達の気持ちが良く伝わってきました。その結果、68名の部員が結束し、念願の全日本インカレ初出場を達成する事が出来ました。指導者として、初めて挑む全国大会。技術指導は勿論ですが、練習に取り組む姿勢、大学生としての生活指導にも重点を置き、中四国学連の代表として恥じぬ様、全日本インカレに挑む準備をしています。まだまだ未熟なチームですが、会場に足を運んで下さった皆さんに応援されるチーム創りをしています。試合終了のホイッスルが鳴るまで、全力でボールを追いかける選手たち、メンバーに入れなかった選手たちの気持ちの入った応援を観ていただけたら幸いです。

創部から積み上げてきた速攻を武器に、全日本インカレの舞台でどの程度通用するのかを楽しみにしています。環太平洋大学男子ハンドボール部の新たな歴史を刻めるよう挑戦します。環太平洋大学男子ハンドボール部を支えて下さっている全ての関係者の方々への感謝の気持ちを忘れずに、選手・スタッフ一同最後まで全力で戦います。

第13回日本車椅子ハンドボール競技大会

［主催］日本車椅子ハンドボール連盟
［開催期日］2015年11月21日(土)、22日(日)

優　勝：宮城フェニックス
準優勝：ドリーマーズ
3　位：大阪NRF
4　位：大阪体育大学BLAZE

2015年11月21日・22日に鳴門市で文部科学大臣杯第13回日本車椅子ハンドボール競技大会が開催された。鳴門市は本州から四国への入り口の一つで、渦潮で有名な所である。また、焼き芋の鳴門金時や海産物のわかめ、料理や飲み物に風味を加えるスダチなどでも有名である。

ところで、この大会は、障がい者スポーツを普及する目的で、障がい者、健常者、老若男女、誰もが一緒に楽しめる「共生型のスポーツ」として始められ、今回で13回となり、鳴門市での大会は、3回目となります。また、大会は、競技の部11チーム、フレンドリーの部2チーム、友情参加1チームが参加し、初日の21日は予選リーグ、22日は決勝トーナメントが行われました。

競技の部の予選リーグは、亀の子方式を採用し、Aブロックと Bブロックに分かれて行われた。その結果Aブロックは宮城フェニックス（宮城県）が1位、続いて2位は大阪体育大学BLAZE（大阪府）、3位大阪NRF（大阪府）、4位藍野大学TOPSレディース（大阪府）、5位那賀クラブ（和歌山県）、6位パッチワークドルフィン（徳島県）、Bブロックはドリーマーズ（京都府）が1位となり、2位藍野大学TOPS（大阪府）、3位パッチワークワンズ（徳島県）、4位大阪体育大学APES（大阪府）、5位京都伏見スパローズ（京都府）となった。

2日目の決勝トーナメントでは、競技の部は7連覇11回目の優勝の宮城フェニックスと昨年準優勝のドリーマーズが決勝に進み、大阪NRFと大阪体育大学APESが3位決定戦に進みました。フレンドリーの部は初日は岩出ハンドボール教室、ガッチャンズに、友情参加の八万中学校を含めて3チームで交流試合を行い、2日目に岩出ハンドボール教室、ガッチャンズで決勝戦が行なわれました。

▼競技の部の3位決定戦

大阪NRF　16（9－5、7－9）14　大阪体育大学BLAZE

前半15秒でいきなり大阪NRFの馬場が先制点を決める。その後、双方攻撃を続けるがシュートミスやキーパーのセーブでなかなか追加点が入らない状態が続く。そのうちに大阪体育大BLAZEが点を入れ同点とするが、続けて大阪NRFが2点を決めた。その後、また膠着状態がしばらく続いた後、少しずつNRFがゴールを決め、差を広げていく。NRFは高いディフェンスで、BLAZEはなかなか隙が見つからず得点にならない。一方、NRFは福島の豪快なミドルシュートなどで、4点を決めた。負けじと、BLAZEが堤を中心に点を取っていく。前半はNRFは9対5とリードした。

後半、30秒にNRFは得点したが、BLAZEが立て続けに得点をあげ点差を縮め、10対8とした。気が付いてみると驚いたことに、NRFの福島と馬場の二人だけで10得点していた。BLAZEにすれば、この2人を抑えれば、勝利が見え

そうであった。ベンチから声援が飛び交う中、NRFの福島にイエローカードが出る。手に汗握る接戦だ。取られたら取り返すその差1点リード。後半14分NRFが追加点を決め結局16対14でゲームセット。両者一歩も引かない素晴らしい試合であった。

▼競技の部の決勝戦

宮城フェニックス　16（11－4、5－7）11　ドリーマーズ

決勝戦の先制点は宮城フェニックスの熊倉がもぎ取った。ドリーマーズの素早い速攻もキーパーの好セーブにより防がれる。前半3分ドリーマーズが1点取り返すが、宮城フェニックスにうまくディフェンスを崩され、追加点を許す。しかし、ドリーマーズはポストをうまく利用し、宮城フェニックスに食い下る。宮城フェニックスはキーパーの好セーブなどによりドリーマーズの攻撃を防ぎ、また、巧みな連係プレーで点差を広げた。宮城フェニックスの佐藤は難しい角度からのシュート決めるなど多くの得点を獲得する。ドリーマーズの高いポストも宮城フェニックスの堅いディフェンスにより機能せず。前半は11対4で宮城フェニックスが7点リードで終了。

後半はドリーマーズがどのように相手ディフェンスを崩すかが見所である。先に決めたのはドリーマーズの真下だ。彼は冷静で、高い身体能力により相手ディフェンスを崩した。ドリーマーズは勢いを増し彼を中心に差を縮めていく。しかし、宮城フェニックスは踏ん張りを見せ、工藤が反撃。堅いディフェンスからの速攻で1点、2点とまたも差を広げて行く、彼の豪快なシュートは会場を沸かせた。ドリーマーズは反撃するもすでに遅く、全国の頂点に立ったのは宮城フェニックスで、16対11で圧倒的な勝利であった。中でも2番の佐藤と4番の工藤の存在感は圧倒的であった。この勝利で宮城フェニックスは8連覇12回目の優勝となった。

■フレンドリーの部

岩出ハンドボール教室 22（10－7、12－4）11 ガッチャンズ

岩出ハンドボール教室が先取するが、ガッチャンズもすぐにロングシュートで1点を取り同点とした。その後、キーパーの好セーブやシュートミスなどでしばらく得点できず。岩出は、段々と試合に慣れてきてパス回しが上手くなりポストシュートで次々と加点していった。一方、ガッチャンズはポストシュートでなくロングシュートに頼り、なかなか得点できない。それでも上手いロングシュートで、得点していった。前半は岩出がリードの10対7で終わった。

後半、岩出は選手が多く入れ替わり、前半よりスピードが増し、相手ディフェンスを上手くかわし、多くの得点を取った。ガッチャンズは上手くパス回しをこなし、ロングシュートで得点し、健闘していたが、結局11対22で岩出が圧勝した。

今後この子供たちが選手となって活躍し、車椅子ハンドボールが普及していくことを期待しています。

なお、今回、関東から諸岡さんが宮城フェニックスの選手として、岡本さんが宮城フェニックスのカメラマンとして参加されました。諸岡さんは学生時代からハンドボールをしていましたが、交通事故に遭い、ハンドボールが出来なくなりました。そこで岡本さんと一緒に、関東地区に車椅子ハンドボールのチームを立ち上げようと頑張っておられます。私たちは、全国に車椅子ハンドボールを普及したいと活動しておりますが、全国に普及するまでに至っておりません。そのような状況下で、このような人たちが沢山出られることを期待し、協力したいと思っております。

来年度の日本車椅子ハンドボール競技大会は、宮城県仙台市泉総合運動公園体育館で開催しますので、皆様方のご参加、ご観戦を是非ともお願いいたします。

男子U-16日韓スポーツ交流（派遣・受入）

3点共【写真提供】スポーツイベント社

選手団名簿

役職	名前	所属
団長	岩本　明	（公財）日本ハンドボール協会 浦和学院高等学校
監督	阿部直人	（公財）日本ハンドボール協会 法政大学第二高等学校
コーチ	近藤恒俊	（公財）日本ハンドボール協会 大崎電気工業株式会社
トレーナー	市川央人	（公財）日本ハンドボール協会 いちかわ接骨院

	名前	所属
1	部井久アダム勇樹	博多学園博多高等学校
2	河原脩斗	茨城県立藤代紫水高等学校
3	藤川翔大	山口県立岩国工業高等学校
4	朝野翔一朗	富山県立氷見高等学校
5	橋口博隆	大分県立大分雄城台高等学校
6	山﨑洸平	岐阜市立岐阜商業高等学校
7	藤田龍雅	法政大学第二高等学校
8	中村　翼	北陸学園北陸高等学校
9	石濱　塁	愛知学院愛知高等学校
10	高橋　海	法政大学第二高等学校
11	香月大輔	明星学園浦和学院高等学校
12	矢野世人	浪商学園大阪体育大学浪商高等学校
13	玉城　翔	興南学園興南高校
14	西　遼太	法政大学第二高等学校
15	田中柊馬	茨城県立藤代紫水高等学校
16	狩野優太	明星学園浦和学院高等学校

2015年度男子U-16日本代表活動報告

男子U-16日本代表監督　阿部 直人

1．はじめに

本年度も無事にU-16日韓交流を終えることができました。本年度は日韓交流（受け入れ）において初めての男女共同で開催しました。開催にあたりご尽力を賜りました佐賀県ハンドボール協会並びにトヨタ紡織九州をはじめとします関係者の皆様に心から感謝申し上げます。以下、本年度の活動報告をします。

2．大会にむけての準備

第1回強化合宿　5月15日～18日（3泊4日）
味の素ナショナルトレーニングセンター
第2回強化合宿　7月3日～5日（2泊3日）
味の素ナショナルトレーニングセンター
第3回強化合宿　8月24日～26日（2泊3日）
味の素ナショナルトレーニングセンター
日韓交流訪韓　8月26日～31日（5泊6日）韓国仁川
日韓交流受入　9月16日～21日（5泊6日）佐賀県佐賀市

今年度は5月から強化合宿をスタートし、訪韓直前合宿を含め10日間の強化合宿を行いました。（第1回は選考も兼ねた合宿）メンバー（16人）の選考においては、基礎体力・形態・技術、そしてポジションバランスを考慮し選考しました（CPにおいては、すべての面において例年より優れた選手が多く、ユース・ジュニアに向けて期待が持てる選手であると思います）。

U-16においては対韓国勝利だけでなく、日本代表としての姿勢づくり、フィジカル強化（栄養指導含む）の導入等を軸においています。具体的な内容を以下に記します。

【第1回強化合宿】
午前：陸上トラックでのラン、コート上でのサーキット、筋トレ、体幹トレ、負荷をかけた状態でのシュート練習
午後：DFにおけるハードコンタクト、DFにおいての3人～6人の連動
ミーティング（夕食後）：日本代表としての自覚・責任等姿勢作り、一流アスリートになるための思考、努力、モチベーションアップ

【第2回強化合宿】
午前：コート上でのサーキット、筋トレ、体幹トレ、DFにおけるハードコンタクト、戦術（6－0、3－2－1）
午後：オフェンスにおける戦術（6－0、3－2－1に対するきっかけ、3－3に対する戦術）、実践練習
ミーティング（夕食後）：一流アスリートになるための思考、努力、モチベーションアップ

【第3回強化合宿】

戦評

■8月29日（土）：仁川

日本　23（11－9, 12－13）22　韓国

日韓交流戦・韓国ラウンド（25分ハーフ）での初勝利に向けて試合前、宿舎においてミーティングを行い、意思統一して臨んだ。「闘争心」「闘志」「迷いのない強い気持ち」等、メンタル面の充実を図りゲームに臨んだ。

韓国スローオフ。日本は、アウェーでのジャッジを踏まえ6-0ディフェンスでのぞんだ。（スターティングメンバーは、藤田、河原、藤川、アダム、西、橋口、GK高橋）ミーティングの成果もあり、開始早々気持ちを前面に出し6-0ディフェンスからのハードなコンタクトを繰り返し、橋口の速攻で先取点。その後日本は、河原のミドルシュート、藤田のサイドシュート等で加点していくが4-2ディフェンスにシステムを変化した韓国を攻めあぐみ、得点が伸びない。しかし、粘り強いディフェンスから藤川のミドル等で加点、GK高橋の好セーブで失点も抑え11対9と2点リードで前半を折り返す。

後半に入ると韓国は攻撃的な3-3ディフェンスにシステムに変え、日本BPにプレッシャーをかける。日本BP陣はうまく間合いがとれず、ミスが続き12分、15対16と逆転される。日本はセンターに矢野、サイドに朝野を投入し流れを変える。残り10分、連続で退場者を出し苦しい時間が続くが河原・西らが加点、さらにGK石濱の7mTセーブと、全員のディフェンスで凌ぎ。21分、21対21の同点と一進一退の攻防が続くなか、残り20秒、藤田の決勝ゴールで韓国ラウンド初めての勝利を飾った。

最後の最後まで諦めず、闘う姿勢を持ち続けたことがアウェーでの初勝利となった大きな要因であった。

［個人得点］ 河原：8点、藤田：5点、藤川・橋口：3点、西：2点、朝野・山﨑：1点

■9月19日（土）：神埼市

日本　28（12－12, 16－12）24　韓国

8月29日、U-16日韓交流戦韓国ラウンドにおいて初の勝利を果たし、臨んだ日本ラウンド。韓国ラウンドでの課題を明確にしてトレーニングを行ない、良いコンディションで試合を迎えた。

スターティングメンバーは、オフェンスはアダム、藤川、矢野、河原、藤田、橋口、ディフェンスで朝野、西、GK高橋。立ち上がり日本は3-2-1ディフェンスで韓国バック陣にハードコンタクトにいき、失点をおさえるが、日本オフェンスも韓国の高い3-3ディフェンスに攻めあぐみ12分5対7という苦しい展開となる。が、そこから藤川、朝野のカットインで流れをつかみ、河原のロングで20分逆転に成功。韓国も日本のシュートミスを得点につなげ、12対12で折り返す。

ハーフタイムで近藤コーチの指示により6-0ディフェンスにシステムを変更。やるべきことを明確にして後半にのぞむ。それが功を奏し8分間無失点、その間に河原、アダム、藤田らで6連取し18対12と優位に展開する。途中韓国も5連続得点で2点差まで粘るも、投入した山﨑のロングシュートで再度突き放した。最後はメンバー全員がコートに立つことができ、28対24で韓国ラウンドに続き2連勝で日韓交流戦を締めくくった。

［個人得点］ 河原：7点、藤川・山﨑・藤田：4点、朝野・アダム：3点、矢野：2点、玉城：1点

午前午後ともに、体力トレーニングを行った後、戦術の確認、実践練習

計10日間という短期間でのチームづくりのため、上記のように徹底できることをスタッフで整理しのぞみました。また第2回合宿の最終日に、浦和学院高校、藤代紫水高校と実践練習を行えたことでチームの課題が明確になり、訪韓の前に貴重な経験となりました。

3．大会結果

日韓交流戦（訪韓）8月29日

日本　23（11－9、12－13）22　韓国

日韓交流戦（受入）9月19日

日本　28（12－12、16－12）24　韓国

4．日韓交流を終えて

上記のように、日韓交流戦アウェー、ホームともに勝利することができたことは大きな成果となりました。（U-16日韓交流戦においては初めてのこと）今後、ユース、ジュニアと対韓国は避けては通れない中で選手には大きな自信になったと思います。

U-16は日韓交流戦で勝利することももちろん重要なミッションですが、それと同時に徹底すべきことがあると考えています。一つは今後ユース・ジュニア、そして日本代表となり国際試合で自らのスキルを十分発揮させるための土台となる体づくりです。日本の中学生・高校生は他国に引けをとらないスキルを持っています。しかし、中東やヨーロッパの大きい選手の前では、「上手さは強さに消される」場面が多々あります。そのために持っているスキルを出すための体が必要となります。強化合宿においてはトレーニングだけでなく、栄養指導も行い、双方からアプローチしました。もう一つは、日本代表としての自覚・責任の徹底です。「あるべき姿」、「どうあるべきか」の徹底です。U-16は一番下のカテゴリーですので、すべての者が初めての代表活動です。選ばれたことだけで満足するのではなく、ここがスタートで、そして自然と責任が伴うことを落とし込みます。一流選手になるための思考、そこから生まれる行動・努力。このようなことはいきなり伝わりきるわけではありませんが、U-16をスタートとし、我々ナショナルスタッフが粘り強く伝え続けていかなければならないと考えています。そして将来日本代表となるときには、「外発的」ではなく、「内発的」なモチベーションを身につけ、代表活動を継続していけるような選手になるための第一歩となればと考えています。「精神の涵養」、そして「総合的な選手・一人間としての陶冶」。今回の強化合宿、そして日韓交流においてもあらゆる角度からアプローチすることができたことは、もう一つの成果であったと思います。

最後になりましたが、U-16日本代表チームを全面的にバックアップしていただいた方々に心より感謝し、報告とさせていただきます。ありがとうございました。

女子U-16日韓スポーツ交流（派遣・受入）

受入：2015年9月16日(水)－21日(月)　佐賀県・神埼市(トヨタ紡織九州・クレインアリーナ)
　　　交流戦（9/19）　日本　20（10-16, 10-14）30　韓国
派遣：2015年11月27日(金)－12月2日(水)　韓国・仁川
　　　交流戦（11/30）　日本　20（7-17, 13-10）27　韓国

第19回U16日韓親善スポーツ交流戦を終えて　女子U-16日本代表監督　尾石 智洋

【はじめに】

2015年度日韓スポーツ交流が、関係者及び所属チームの方々のご指導と様々なご協力のなか、有意義に行えた事を大変感謝しております。特に今年度はMERSの影響で訪韓がキャンセルとなり実施することが出来ない可能性もありました。安全性を第一に考えながら、訪韓も無事に行うことができ、うれしく思っています。受入は、初の男女共催となりました。お互いの活動を通して改めて学びあうことが出来ました。特に佐賀県の関係者の皆様に大変感謝しております。

この活動の目標は、世界に勝てるチームを目指す。愛されるチーム（応援されるチーム）を目指す。社会に認められるチームを目指す。そして、代表としての高い人間性の形成を基本に、オリンピックメダリスト育成の登竜門として活動することです。これまでに結果を残している韓国を良きライバルとし、テストゲームや親善試合を通して個々の技能を上げ勝利を目指しました。そんな中、ここ4年間日本ラウンドでは勝つことができ、日本の力が付いてきたことがいえます。今年度も、韓国でのテストゲームでは（12－9○4－9×9－9△）でした。残念ながら親善試合で勝利することが出来ませんでしたが、対等に戦えることが今年も感じることができました。

基本コンセプトは、テンポの速いゲームをめざし、アグレッシブな防御から速攻への切り替え（1次→2次→3次展開。ダイナミックな動きのある攻撃。正確なストップによる攻撃）としました。常に切り替えができることを基本に、判断力を育成するトレーニングを行いました。

【課題と成果】

これまでの活動も通して小・中学生期に行うべき具体的な取り組みについて、課題を何点かあげさせていただきます。

①切り替えの速さを重視した練習を行う

コート内での切り替えを徹底していく。例えばコーンタッチ利用のDF練習などで、タイミングを変え状況設定練習を行う。また、練習中の話し合いの効率化及び目的意識の共有力をあげていく必要がある。そして、コート内で使う言葉やしぐさの整理も切り替えの早さに繋がる。

②投げ（特にシュート、ミドルパスにおいて）

筋力がなく上に上げることだけからはじめていても、ジュニア期の投げは成立しない。回すこと（テイクバック）にこだわるのではなく、正しく体を使いクイックでの投げをジュニア期から作っていくことが必要である。男子と女子で方針を変える必要がある。

③身体をゴールに向けて練習をする

全てゴールに向けての練習。フットワーク練習にしてもゴールに向かって行う。反復練習が多くなり練習の面白さには欠ける要素もあるが、勝つための基本パターンを共有する。

ジュニアからシニアまで試合前のアップが同じであることからも伺える。

④DFフットワークの徹底

韓国の取り組みを中心とした攻撃のフットワークを意識してきた流れがあるが、DFのフットワークを意識させた取り組みが重要である。システムがありきでなく、ボールに対して個々の守りが重要である。次の選手は、ボール保持者に対しての意識を高く持ちつつ自分のマークとの判断力を重要視する。基本、マンツーマンだと見えているが、それは1－1が守れているから結果、マンツーマンになっている。その為に基礎となるフットワークを徹底する必要がある。

⑤ファールをとる意識改革、接触怖がらない

体幹力といえばそこまでだが、接触を怖がらずにプレーをする意識と実践が必要である。※審判の判定基準（小・中学生期）を国内で検討する課題がある。

⑥GKの育成

GKアカデミーの設置により、ジュニア期より同じとり方を行い、その精度を上げていくことが必要である。〈両足での立ち方、跳び足、跳んでいるときの姿勢（逆足）、空中姿勢が毎年韓国のGKは整っていて、更に精度を上げようと練習している。〉

⑦トップチームから学ぶジュニア育成の重要性

韓国はU12にてヨーロッパの大会にも参加。指導者講習会でコーチングを学んでいる。U16でも大会に参加し、コーチ陣もヨーロッパの技術指導を見ている。現在韓国内で行っていることが、将来通用するのか見極めジュニア指導を行っている。(指導を毎回全国大会時実施、他にもアカデミー実施)

⑧大型化とポジションでの育成

ジュニア期に大きくて判断力の高い選手の育成が求められている。特に女子は男子よりも若い世代で育てる環境が必要である。そして、大きいだけでなくポジションの特性を生かした育成も重要である。韓国では毎年左利きが4～5人は存在している。今年の韓国チームには180左利きがエースとして存在。（この選手に1人の左利きコーチを配置）ポストでは180の小6が仁川選抜にて育成中だった。日本チームも、今年度は左利きを4人（中村171 阿部167 金城161 小林158）選考した。GKも3人選考した。発掘し育てる環

選手団名簿

役職	名前	所属
団長	角　紘昭	(公財)日本ハンドボール協会 特任副会長
監督	尾石智洋	(公財)日本ハンドボール協会 東久留米市立西中学校
コーチ	麻生　薫	(公財)日本ハンドボール協会 岡山県立倉敷天城中学校
トレーナー	内田春菜	(公財)日本ハンドボール協会 東京・目黒／山中整骨院

	名前	所属
1	金山桃歌	高岡向陵高校
2	中村歩夢	不来方高校
3	阿部美幸	佼成学園女子高校
4	金城ありさ	佼成学園女子高校
5	小林可奈	水海道第二高校
6	滝川莉奈	水海道第二高校
7	今川真奈	日川高校
8	小野あゆみ	相模原市立緑が丘中学校
9	滝川璃紗	東久留米市立西中学校
10	伊藤愛莉	名古屋経済大学市邨高校
11	三村亜美	玉野光南高校
12	宝田希緒	水海道第二高校
13	横田希歩	高水高校
14	尾辻素乃子	明光学園高校
15	東江華奈	浦添高校
16	舟久保朱音	四日市商業高校

境が今後ますます進んでいけたら日本の標準装備力が上がることは間違いない。

【最後に】

今回も限られた時間の中で、選考された選手たちは必死に取り組んでくれました。今後更に専念できる環境を与えられ、一層努力してくれると思います。とても期待しています。

そして、ナショナルチームの強化の根本的対策は、ジュニア層の育成です。特に高校生になるまでの基礎基本の構築こそ、本格的に取り組むべきだと考えます。東京オリンピックに向けての強化体制が構築される中、今まで以上に、先の世代の夢をもっと広げることが大切であると思います。ありがとうございました。

【親善試合結果】

日本ラウンド、韓国チームのOh選手の速攻で幕を開けた。その後日本チーム横田選手のミドルシュートで同点にするが、LW、RWのシュートが立て続けに決まり、日本チームが韓国チームを追いかけるゲーム展開となった。気持ちを入れ替えて臨んだ後半は、エース金城のスタンディングシュートでリズムを掴むかに思えたが、韓国のゲームメーカーCBと左腕大型エースのミドルシュートを決められ韓国ペースとなった。金城、横田、東江のカットインやステップシュートなどで反撃するが、間に合わず、20対30で日本ラウンドを敗戦した。DFに課題は残ったものの、日本の速攻は韓国チームにとっての脅威であった。

韓国ラウンドは、お互いに狙い目が分かっている中での戦いとなった。韓国のDFが機能し、先行される展開になった。日本も速攻が機能し得点を重ねるが、CB中心に着実に得点を重ねさせ、20対27にて敗戦した。日本の長身RB中村がフル出場し日本の大型左利きの将来の可能性を見ることが出来た。

戦評

■11月30日（月）：仁川

日本　20（7-17, 13-10）27　韓国

日韓交流韓国ラウンドは、日本ラウンドでは先発出場でなかった大型左腕中村を今大会ではスタートから起用した。

前半、韓国の大型左腕エースと多彩なミドルを打つセンターに対し、強いコンタクトを要したディフェンスで対抗したが、韓国のスピードある攻撃に４連取を許し、立ち上がりは韓国ペースでスタートした。中盤から大型の中村、伊藤のディフェンスが機能し、阿部、東江の速攻で追撃するも、センターの鋭いカットインで韓国ペースで前半が終了した。しかし、韓国の大型左腕エースを２点に食い止めたことは成果があったといえる。ハーフタイムでは、尾石監督から、粘りのあるディフェンスから速攻を狙うように指示があった。

後半立ち上がりから、日本チームは中村、伊藤を中心としたディフェンスから、東江、横田、小林の素早い速攻が立て続けに決まり、後半は日本チームのリズムでゲームが流れた。後半ラスト10分には、日本チームエース金城のステップシュートで勢いを取り戻し、４点差に迫ったが、韓国のステップワークでディフェンスを崩され、タイムアップとなった。

今大会では、東江、横田、小林、金城などの小柄ながら起動力のある選手を中心に攻撃を展開しゲームメイクができた。今後の課題として大型左腕の育成があり、中村の将来が期待される。大型化している韓国に対抗できるシステムを目指すことも今後の課題である。

［個人得点］金城：９点、横田・東江：４点、小林：３点

第3回 全国U-12指導者研修会

日本ハンドボール協会小学生専門委員会委員長　竹内 貞明

1 今回で3回目を数えるU-12指導者研修会を11月14、15日の両日、味の素ナショナルトレーニングセンターにおいて開催しました。全国から40名を超える指導者に参加していただき、非常に有意義で充実した内容の研修となりました。これまでに延べ108名の指導者が参加されたことになります。参加者は小中高指導者、協会関係者、JHL所属チーム関係者等多種にわたり、今研修会がネットワークを広める大きな役割も担っており、指導者間での交流が非常に活発になってきたと思われます。

【14日（1日目）】

1．基調講義：講師・日本ハンドボール協会常務理事　三輪一義
2．実技指導：講師・東久留米市立西中学校監督 尾石智洋先生、女子部員10名
3．指導者懇親会

【15日（2日目）】

4．実践発表：進行・日本ハンドボール協会参事　山本　繁 普及委員長
5．グループ討議
6．小学生の現状：報告・日本ハンドボール協会参事　竹内貞明 小学生専門委員長

研修会のカリキュラムは上記のとおりです。なお、今回の研修会修了者には公認J級指導員資格の新規取得及び更新講習、日本体育協会有資格指導者の義務研修も兼ねて実施しました。

基調講義として今年度の役員改選により、新たに常務理事に就任された三輪普及指導本部長に「あなたが思い描く指導者像とは？」と題して、子供達に夢を与えるために指導者のあるべき姿について、以下の項目をお話しいただきました。

①自分が指導を受けて来た指導者は？
②指導者に求められるものとは？
③スポーツ指導者が陥りやすいこととは？
④スポーツ指導の現場で？
⑤私の思い描く指導者像とは？

「我々指導者はいったい何を求めて子供達を指導しているのか」の原点に立ち戻り、改めて指導の指針となる基本を学ばせていただきました。一生繋がる人間関係、心の師となる指導者を目指して…、参加者の眼差しは真剣そのものでした。

2 実技指導には東京都の東久留米市立西中学校監督でU-16女子監督も務める尾石智洋先生と同校の女子選手10名（1年生を中心）に参加してもらいました。ナショナルトレーニングセンターハンドボール専用コートを使用して、基本的な同校の練習メニューによる実技講習が行われました。シュート練習を中心としたメニューの中で、シュート練習のポイントやDFの動きに合わせた個人の判断力をステップワークの種類やその意味も交えながら、指導者がどの様に発見・検証・修正していくのかを分かりやすく解説しながら展開していただきました。最後にはラダーとボールを同時使用するなど、頭で考えながら工夫されたフットワーク練習も紹介していただき、基本動作習得の大切さを実践的に学ぶことが出来ました。全国から参加した指導者の方々からも、時間が足りないとのご指摘をいただくほど充実した内容となりました。

3 参加指導者の大きな楽しみ、目的の一つに指導者間の交流があります。同日夕方から指導者、講師を含む全員が参加して懇親会を開催しました。お互い名刺交換したり、地域の情報を得たり、悩みを共有したりと短時間ながら非常に盛り上がる楽しく有意義な懇親会になりました。

4 翌日は山本繁普及委員長を中心に女性指導者にターゲットを当て、女子部員への指導方法などをテーマに、実践報告形式でディスカッションを行いました。大阪で小学生チームを立ち上げ、現在は中学生のクラブチームを指導する渡井弘枝さんを中心に、研修会に参加されている女性指導者の皆さんにも実践報告をいただきながら議論を進めました。男性指導者と指導の違いは感じられないものの、女子部員の減少は全国的な問題になっており、女子部にはやはり保護者を交えた女性指導者が重要な役割を果たしていることを改めて感じる時間となりました。このディスカッションの結果を元に、グループ討議の一議題として持ち越すことになりました。

5 研修会の最後にはグループ討議を行いました。事前に参加者からご意見をいただいており、その意見を基に４つのグループに分けそれぞれの議題について真剣にそして和やかな雰囲気の中で議論が進んでいきました。指導者間で問題意識を共有し、解決に向けた話し合いになりましたが、限られた時間の中で答えを見出すことは非常に困難であるため、グループごとに小学生委員が参加し協議内容を集約して目に見える形で公表することとしました。

検討した４つの課題は以下についてです。（資料１）

①指導法、練習方法について
②部員募集、部員数維持について
③クラブ運営、財政面について
④女性指導者、女子指導について

6 研修会の最後は私が小学生専門委員長の立場で、小学生の現状についてお話しさせていただきました。今年度から始まったＪクイックハンドボールの検証を筑波大学のご協力を得て実施し（資料２）、その速報結果に対して小学生委員が意見を集約、現状の問題点などを洗い出しました。検証については３年計画で行い、ゲーム様式変更における試合様相、練習メニューの変化などを調査して皆さんに分かりやすい形で報告、提案していきたいと思います。また、現在日本協会に登録したチームの実態しか把握されておらず、地道に活動を続けているチームをサポートしていくためにも中央だけでなく、積極的に地方に出向き実態調査を行うことも普及の大切な役目だと思います。今後は指導委員会と連携し、講習会を希望する団体に対して指導者を派遣する指導者バンクの計画も合わせ、小学生の指導方法の再検討、情報公開のため委員会独自のホームページ新設計画を進めています。

小学生はハンドボールを始める大切な年代であり、心と体のバランスが非常に壊れやすい反面、タイミングによっては一挙に成長する大切な時期でもあります。子供達の成長に合わせた指導方法が大切であり、また子供達の能力に応じた対応も重要になってきます。その為には常に学びの意識が必要であり、今回のような研修会が全国、ブロック各地で開催されることが急務かと思われます。今回の研修会でも勝利を目指すチーム、楽しみたいチーム、スタートしたばかりで運営の仕方すら手探りのチームなど、非常に幅広い考え方を持った指導者が集いました。そこで答えを１つにする必要はありませんが、指導者はハンドボールを教える、ある意味で教育者でなければなりません。そのためには学びの機会を提供し、指導者としての自信と資質、そして資格（ライセンス）を持ってもらう必要があると感じます。今後も研修会の開催機会を増やし、ブロックや各都道府県でも開催できるような組織づくりもしっかり行っていきたいと考えています。今研修会参加者にアンケートをお願いしましたが、その中で、「迷いながら指導を続けて来たけど、皆さんとお話しできたことによって、明日からは自信をもって指導に臨むことができそうです。ありがとうございました！」とありました。一人でも多くの指導者の悩みを共有して、ハンドボールが大好きな子供達を育てていけるように、その手助けができるように今後も努力していきたいと思います。

資料１　第３回全国 U-12 指導者研修会　グループ討議

①クラブ運営

【年会費・遠征費について】

・6,000 円～ 12,000 円が多い。30,000 円というチームもある。バラつきがあるのは、会場使用や遠征補助費などで差が生じているから。
・このほか大会参加費などは別途徴収するケースがほとんど。（上位大会進出する年などは、会費外が年 20 万円程度かかるチームもある）
・行政・協会からの支援を受けているチームもある。
・地域企業などスポンサーから支援を受けているケースもあった。
・行政や地域企業からの支援（体育館減免や遠征補助）を取り付けているケースが多く、特に運営上、困っているチームは無かった。ただ、バス代の高騰は頭の痛い問題である。
・部費の値上がりを検討しているチームが多かったように思う。ハンドボールで高すぎると部員が集まらないのではないかと悩んでいる。

【スタッフについて】

・スタッフが無給はどこも同じだが、スタッフ経費（遠征費など）は、自己負担、チーム負担と様々。
・会計業務に関しては、スタッフが全て行う、保護者が全て行う、一緒に行っているなど様々。
・ハンド経験のある保護者の一時的なスタッフの参加について、過去はあったが、今は避けているチームが多い。（練習時の保護者見学を禁じているケースもある。）
・保護者の理解がないとチーム運営は難しいが、過度の介入はかえって危うくするケースが散見され保護者とのバランスをどのようにとるかがチーム運営上、肝要となるようだ。
・保護者会をつくってチームの方針（スタッフについてを含む）を伝えることが望ましい。

・体育館申請や会計は保護者のほうでやるほうが望ましい。（指導者の負担軽減）

②部員募集・部員数維持

【現状】

・どのチームも男女合わせても 15 ～ 40 名程度であり、常に人員不足を感じている。
・各学年７名程度×６学年×２男女で、80 名強の人員が理想的ではあるが…（普及も兼ねて）
・兄弟姉妹、親戚、従兄弟などの身内からの加入者が多い。
・保護者の中に、遠征や送迎などが負担になり、敬遠される方がいる。
・市内小学校にチラシを配布したり、募集ポスターを掲示したりしたが、その効果はかなり薄い。
・体験教室なども、加入のきっかけになるが以前よりその効果は少ないように思う。
・保護者間の繋がりから、加入を勧めても、友達がいない、または楽しいと感じないと続かない。
・興味を持っても、練習日にすでに別の習い事や用事があると、加入に至らない。
・送迎や他の用事がネックになるケースが多いので、柔軟な対応が求められる。

【練習について】

・練習日（曜日）や練習時間が決まっていた方が部員が集まりやすい（保護者の立場からすると）
・練習時間は夜（18 時から）よりも夕方（16 時から）の方が望ましい（子どものことを考えると）
・週１回など、他の習い事と掛け持ちできると「やってみよう」という人が増え、部員は増えている。（普及を第一に考え、中学に上がる時にハンド部を選択してもらえるような活動をしている。）
・中学年・高学年から入部するよりも低学年から入部した方が辞めていく確率が低いようなので、低学年からの部員確保に努めるとよい。
・子どもの口コミは影響大。子どもからチームを作ろう。仲間を誘おう。という声があがればよい。

【保護者について】

・保護者会の在り方によって保護者が入部に意欲的になるようだ。（ほとんど運営には携わらず、送り迎えのみがメリット）（逆にしっかりとした役割があり、保護者間で団結力が出る・仲良くなる）
・親の意識、理解不足→ GK は危ない。練習きつい。遠征が多い。→逆に、あずけたら安心。後はよろしく。というような関心の低い保護者もいる。
・遅刻、早退 OK にしている。最終的に決めるときは、ぜひハンドボールを。
・教室のかけもち、他のスポーツとのかけもちが多い⇔部員募集の時に重複は遠慮してもらっている。また、高学年になったらどちらかをはっきり選択してもらっている。

③指導方法・練習方法

【悩みと解決へのアプローチ】

悩①：子どもたちが勝手な行動をとったり、指導者の言うことを聞いてくれない。
意見：厳しく接してみたらいいのでは。良いこと、よくないことをしっかり指導することが大切ではないか？　運営方針（何を大切にするクラブなのか）の徹底と保護者への発信が必要。
悩②：自分は厳しく、子供達に自主性を持って取り組ませたいが、準備、後片付けまで父母がやってしまう。自分は父母より若いので、なかなか父母に対して言えない。
意見：自分がブレずに指導するのが大切では。チーム方針を確立すべきではないか。チーム方針の確立が第一だと思う。上記の様な運営のチームもあるだろうし、指導者がどうしたいか、どうやって今の現実に合わせるかが必要。
悩③：モチベーションをあげるには？　集中力を保つ練習方法とは？を以下のように話し合った。［時間の制限及び似たようなテーマだったので、全員のテーマを繋げることでイメージをしやすくしてみた。「モチベーションが上がるという事は、集中している状態なので、そのような練習を提供できれば、それは子ども達にとって効果的な練習となっている。」］
意見：まずは、指導者と子どもたちが「できた瞬間」にハイタッチをして喜びを共有する。子ども達と適度な距離感を持ちながらも喜べる瞬間･できたと感じる瞬間を意図的に作り出せるような練習法。ゲームの中でわざと子どもに任せる場面・指導者の思いが、子ども達に伝わるようなコミュニケーションが結果として瞬間を共有できるのではないか？　それがいい練習につながり、強化にもつながっていくのだと思う。

④女性指導者・女子選手の指導

【悩みと解決へのアプローチ】

悩み：女子の指導について、どの様に指導しているか？
意見：常に声を掛けてあげる。交換ノートをしている２冊持って空白の日を作らない。（次の練習の時までに読んで、コメントを少しでも書いて必ず返すことが大切。）

女子の指導は、男子と同じではいけないと思う。男子以上に、常に「見ているよ」という姿勢が見える形で必要である。

【女性指導者として】

・女子の指導者は女子の選手の事がわかりすぎて、我慢しているところがけっこうあるはず。⇒言う（コミュニケーション）
・指導者も空気を読む事が大切。
・勝ちたいチームと普及に力を入れているチームでは、指導の仕方が変わってくる。
・選手になっていない子への声かけを大切にしている。
・ネット、メールの活用→問合せには誠実に対応する。（言いすぎくらい細かく）体験しに来た子にしっかりコミュニケーションをとる。時には、身体にふれて声をかけることも大切。
・叱った後のコミュニケーションも大切。
・女性指導者だから見える、見えている部分もある。気になったら言う、注意する。→しかし、短く、言ったら終わり（長く言いがちになる…）

【女子選手の指導について】

・女子選手から見た印象→臭い・汚いは、女の子は嫌がります。指導者も清潔を心がける。
・女子選手に対して、しっかりコミュニケーションをとる。→女子

選手へ声掛けをする際もバランスよく。叱った後はさり気なくフォローする。
- 女子に対して大人の男性の指導者は清潔感・身だしなみが大切。
- 男子と女子に同じことを伝える際、言い方・伝え方は同じではない。
- 女子チームには女子指導者がいないよりはいた方が良い。
- 女子は集団（グループ）になりやすく、いつも同じ人と練習する傾向にあるので目配り・気配りが必要。
- 男子と女子は高学年になると別々に練習した方が良いかもしれない。
- 女子は理解とできるようになるまでに時間がかかるので、根気よく何回も練習する。（回数大切）
- （男性指導者の意見）女子の方が指導者に気持ちを向けさせたらやりやすい面もある。
- 子どもたちの人間関係を見極めて指導することが大切。
- 女子は練習だけではなく、いろんなところでかまってあげることが必要。←ある意味、異性である
男性指導者の方がやりやすいときもある。
- 女子選手にガツガツして欲しいという意見もある、たしかにガツガツという部分は大切な部分でもあるが、小学生のうちからそこばかりを求めなくてもいいのではないだろうか。
- かげボス（指導者の前では良い子、選手同士になるといじめたり、自分の思い通りに物事を進める子）に対してどう接するか？ ⇒みんなの前で（陰での事を）「知ってるよ」という事を発言する。そして、はっきりその子に言うまたは、こっそりその子に言う（状況によって変える）

《女の子の指導は、人間関係のコントロールが大切》

資料２　Ｊクイックハンドボールの導入が小学生のゲームパフォーマンスに及ぼした影響

**報告者：會田宏[1]、藤本元[1]、山田永子[1]、ネメシュ ローランド[1]、永野翔大[2]、佐藤奏吉[3]、仙波慎平[3]、井上元輝[3]
伊東裕希[3]、吉兼練[3]、下拂翔[3]、橋本真一[3]、加納明帆[3]、福田丈[4]**

1）筑波大学体育系　2）筑波大学大学院コーチング学専攻　3）筑波大学大学院体育学専攻　4）筑波大学体育専門学群研究生

要　約

日本ハンドボール協会は、小学生段階の選手に、判断力と想像力に裏付けられた総合的機動力（トータルモビリティ）を習得させることをねらいとして、平成 27 年の全国小学生ハンドボール大会においてＪクイックハンドボールと呼ばれる新ゲーム様式を導入した。具体的なゲーム様式変更の内容は、競技時間を前後半 15 分のゲームを 10 分×３セットに変更すること、センターラインからのスローオフをゴールキーパーラインからのゴールキーパースローに変更すること、オープンディフェンスを推奨することであった。ゲームでは、全体を通して間断のない攻防の切り替えを、防御においては脚を使った積極的防御を、攻撃においては空いている／空けたところを攻めることを具体的な目標として掲げていた。本稿では、ゲーム様式変更前後のゲームを対象に、そのゲームパフォーマンスを記述的に分析し、新ゲーム様式が小学生のゲームに及ぼした影響について、変更のねらいが達成されたかどうかという観点から考察する。

平成 27 年全国小学生ハンドボール大会（ゲーム様式変更後）におけるゲームは、平成 26 年の同大会（ゲーム様式変更前）と比べて以下の変化を示した。なお、分析は、男女とも準々決勝以上の８試合（３位決定戦を含む）の中で、映像に不具合がない試合を対象とした。

（1）男子の変化

１試合あたりの攻撃回数が増加する傾向にあり、得点は 4.7 点増加した。防御隊形は、1 ラインが減少し、3 ラインとその他（フリースロー時やリバウンド時の防御）が増加した。遅攻が減少し、特殊局面（主にフリースローからのシュート）が増加した。ミスは、センターラインから敵陣の 9m までのエリアでの生起が減少し、敵陣の 9m 内で増加した。シュートエリアは、ロングが減少し、カットインとミドルが増加した。シュートのステップパターンは、ランニングが減少し、スタンディングが増加した。シュート結果は、ゴールキーパーセーブが減少した。遅攻におけるシュート成功率が向上した。攻撃 1 回あたりのパス回数は減少した。

（2）女子の変化

１試合あたりの攻撃回数、得点に変化はなかった。防御隊形は、1 ラインと 3 ラインが増加し、2 ラインが減少した。3 次速攻が減少し、2 次速攻が増加した。ミスは、センターラインから敵陣の 9m までのエリアでの生起が減少し、敵陣の 9m 内での生起が増加した。シュートエリアは、サイドが減少し、ポストとカットインが増加した。シュートのステップパターンは、ステップが減少し、ジャンプが増加した。シュート結果は、ゴールキーパーセーブが増加した。シュート結果は、遅攻における枠外シュートが減少し、ゴールキーパーセーブが増加した。攻撃 1 回あたりのパス回数は増加した。

これらの結果から、新ゲーム様式は小学生のゲームに以下の影響を及ぼしたと考察できる。

〈男子〉
- 攻撃回数が増加し、攻撃 1 回あたりのパス回数が減少したことから、間断のない攻防が実現された。
- 3 ラインディフェンスが増加したことから、オープンディフェンスが積極的に採用された。
- 9m 内でのフリースローが増加し、カットインとミドルが増加したことから、空いている／空けたところを攻める意識が高まった。

〈女子〉
- 攻撃回数に変化がなく、攻撃 1 回あたりのパス回数が増加したことから、間断のない攻防が実現されたとは言えない。
- 2 ラインディフェンスが減少し、1 ラインディフェンスが増加したことから、オープンディフェンスではなく、クローズドディフェンスが多く採用された。9m 内でのフリースローが増加し、ポストとカットインが増加したことから、空いている／空けたところを攻める意識が高まった。

新ゲーム様式の影響

		間断のない攻防		オープンディフェンス		空いているところを攻める
男子	○	表１　攻撃回数増加傾向 表10　パス回数減少	○	表２　3ラインディフェンス増加	○	表６　9m 内フリースロー増加 表７　カットインとミドル増加
女子	△	表１　攻撃回数変化なし 表10　パス回数増加	×	表２　2ラインディフェンス減少 表２　1ラインディフェンス増加	○	表６　9m 内フリースロー増加 表７　ポストとカットイン増加

～覚悟を持った強化体制を～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

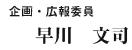
新しい年を迎えた今、どうも晴れやかな気持ちになれない。なぜ？　各新聞の正月紙面にはリオデジャネイロ・オリンピックの話題、期待の記事が大きな文字とともに踊っている。振り返ってハンドボール界と言えば、男女ともアジア予選で出場権を獲得できなかった。女子代表「おりひめジャパン」は３月の世界最終予選で出場への道が残されてはいるが、正直、厳しいと言わざるを得ないのが現実だ。

日本協会は昨冬12月、ホームページ上に「ファンの皆様へ」として、声援へのお礼とアジア予選敗退のお詫びを綴っている。では、今後の強化策はどうなのか。まずは東京大会に向けての具体的な道筋を早く示すべきだろう。

2020年はあっという間にやってくる。一刻の猶予も許されることではない。開催国枠で出場できる見込みとはいえ、それだけで満足してしまえば、これまでとなんら変わらない。

オリンピックへの門戸が閉ざされて以来、レベルアップにどう向き合ってきたか。今こそ真摯に検証すべきではなかろうか。強化体制は間違っていなかったのか、描いてきたプランはよかったのか―など、多角的な議論が尽くされたのだろうか。もしも、体制、プランがOKなら、どうして結果に結びつかないのだろうかとの疑問も沸く。

危機感が充満したバスケットボールがリオ・オリンピック出場権を獲得した裏には何があったのか、なども参考にすべきではないだろうか。

以前、再試合で盛り上がった「中東の笛」騒動では、国内の大ぜいの目が、ハンドボールに注目したのはご存じだろう。熊本での男子世界選手権大会でも関心が高まった。だが、今では〝遺産〟はほとんど残っていないと言っていいだろう。2019年の女子世界選手権も迫る。成功させなければ東京大会には当然ながらつながらない。

折も折、男子の新代表監督に元スペイン代表でシドニー五輪銀メダリストのオルテガ氏の就任が決まった。昨秋までハンガリーのクラブを指揮し、国内タイトルを総なめした実績がある。東京大会への強化を託すのかと思ったら、当面はアジア選手権までという。その後は本人も含めて新監督の人選を見直すと報道された。これだけの期間でどれだけ指導は出来るのか、あるいは手腕を見極められるのだろうか。

また、監督だけでなく代表候補選手選考も素早くやるべきだろう。強化合宿を繰り返しながら〝真の代表選出〟へ全力で対処しなければなるまい。全力で取り組める環境づくりを構築し「Road to Tokyo」へ覚悟してまい進してもらいたい。

平成 27 年度 日本ハンドボール学会主催 研究セミナー
「ゲームパフォーマンスを数量的に分析・研究する方法」

【開催趣旨】

日本ハンドボール学会では、実践活動に関する事例の報告や分析を通して、現場に生きる選手、指導者、レフェリー、トレーナー、アナリストたちの学びに役立つ知を生み出す実践研究を推進しています。昨年度は「実践研究におけるインタビュー調査の可能性と手続き」と題した研究セミナーを開催し、自然科学的アプローチが実践知の領域を正当に扱えない理由、実践知をリアリティ豊かに科学的な知見として表現するインタビュー調査研究の有効性について講義形式で理解を深めました。

今年度は、ゲームパフォーマンスを評価する有効な調査方法の1つである「記述分析」にテーマを絞り、研究セミナーを開催します。「記述分析」を行うにあたり、知りたいことに対して、「いつ」、「どこで」、「だれが」、「なにを」、「なぜ」、「どのように」をどのように選択するのか、ゲームパフォーマンスをどのような客観的な数量データとして表現するのかといったことについて、講義・演習形式にて理解を深めていきます。

「記述分析」を用いた研究を行い、機関誌「ハンドボールリサーチ」への投稿を考えている学会員や大学院生、日々のトレーニングやゲームにて、スコアを記述しているコーチやゲームアナリストなどの参加をお待ちしています。また、本セミナーでは、参加者の皆さまが普段使用されているハンドボールのスコアシートを使用しますので、ご持参くさいますようお願いいたします。

【開催要項】

1. 日時：2016 年 2 月 27 日(土) 9：30 から 11：30（受付開始 9：10）
2. 会場：東京理科大学葛飾キャンパス講義棟 501 教室
（東京都葛飾区新宿 6-3-1、JR 常磐線金町駅から徒歩 8 分、詳細アクセス：https://www.tus.ac.jp/news/katsushika/access/index.html）
3. 参加申込
（1）申込締切日：2016 年 2 月 19 日(金)
（2）申込資格：学会員および非学会員（ハンドボールに関する研究および実践に携わる者）
（3）申込方法：電子メールで受付けます（tamura@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp）
本文中に、①資格（学会員か、非学会員か）、②氏名、③住所、④所属、⑤メールアドレス、⑥緊急連絡先（携帯など）を記入してください。1週間以内に申込受理のメールを返信します。
（4）参加費：①学会員：1,000 円、②非学会員：2,000 円。参加費は当日受付にてお支払い下さい。
4. 当日スケジュール
09：10 〜 09：30　受付
09：30 〜 11：30「ゲームパフォーマンスを数量的に分析・研究する方法」（講義・演習形式）市村志朗（東京理科大学）
5. 持ち物
チームのスコアシート（演習で使用します）

【問い合わせ】

コーチングセミナー実行委員会（代表：田村修治／東海大学体育学部）
メール：tamura@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp　電話：0463-58-1211

ゲームパフォーマンスを数量的に分析・研究する方法

■講　師

市村志朗（東京理科大学理工学部・准教授／博士（医学））
〈主なプロフィール〉日本ハンドボール学会理事、日本ハンドボール協会情報科学委員会副委員長、U22 男子代表チーム・分析担当、東京理科大学ハンドボール部部長

■内　容

ほとんどのスポーツ活動にて、試合結果のみならず「いつ」、「どこで」、「だれが」、「なにを」、「なぜ」、「どのように」といった記録が行われています。皆さんがご存じのように、国内でのハンドボールの試合では、日本ハンドボール協会様式の公式記録用紙を用いて、時系列に「いつ」、「だれが」、「なにを」が記録されています。また、それぞれのチームでは、チームの事情にあったそれぞれの記録方法が存在していると思います。このような「いつ」、「どこで」、「だれが」、「なにを」、「なぜ」、「どのように」といった現象の記録によるゲームパフォーマンス評価手法は「記述分析」と言われており、Hughes らを中心に多くの「記述分析システム」について報告されています。ただ、この「記述分析」は、コート内で起こった現象の回数や時間などを記録し、パフォーマンスを量的に評価することは得意ですが、パフォーマンスを質的に評価することは苦手であり、スポーツ活動の技能を数量化するまでにには至っておらず、未だ改善の余地があることも事実です。

本研究セミナーでは、私が行ってきた手法をもとにして、公式記録に記録されている数量データからどのようなゲームパフォーマンスが明らかになるのかを講義形式にて解説いたします。次に、皆さんが日々使用されている記録様式からどのようなゲームパフォーマンスが明らかにすることができるのかを検討していただきます。そして、これから明らかにしたいゲームパフォーマンスのためには、どのような数量データを取得する必要があるのかを演習形式で考えていきたいと思います。したがいまして、本セミナー参加に際しましては、参加者の皆さまが普段使用されているハンドボールの記録様式を持参いただくことでより有益なセミナーとなると考えております。

日本ハンドボール学会（JAHR）第４回大会開催要項

1．日時

2016 年 2 月 27 日(土) 13 時 30 分から 17 時 30 分(受付開始 13 時 00 分)
2016 年 2 月 28 日(日) 9 時 00 分から 13 時 30 分（受付開始 8 時 30 分）

2．会場

東京理科大学葛飾キャンパス講義棟 501 教室（東京都葛飾区新宿 6-3-1）
アクセス：https://www.tus.ac.jp/news/katsushika/access/index.html

3．大会プログラム

【2016 年 2 月 27 日】
13：00 〜　受付
13：30 〜 13：35　会長挨拶　大西武三（日本ハンドボール学会会長）
13：35 〜 14：35　基調講演「スポーツ科学はコーチング実践に役立っているのか」講演者：會田　宏（筑波大学・日本ハンドボール学会理事長）
14：50 〜 17：30　一般発表

【2016 年 2 月 28 日】
08：30 〜　受付
09：00 〜 10：15　一般発表
10：30 〜 12：30　シンポジウム「リオデジャネイロ五輪女子アジア予選 日本対韓国戦の検証 ―量的および質的な分析評価をもとに―」
パネリスト：小笠原一生（大阪大学）、吉村　晃（豊田合成株式会社）
コーディネーター：山田永子（筑波大学）
12：30 〜 13：15　総会

4．参加申込

（1）申込締切日
当日参加も受け付けますが、できるだけ事前にお申込み下さい。
（2）申込資格
学会員および非学会員（ハンドボールに関する研究、実践に携わる者）
（3）申込方法
非学会員の方は、氏名、住所、所属、メールアドレス、緊急連絡先（携帯など）を大会実行委員会（tsuji@nittai.ac.jp）に電子メールでお送り下さい。1 週間以内に申込受理のメールを返信します。
（4）参加費（全日程）
①学会員：無料
②非学会員：（一般）3,000 円、（大学院生・大学生）1,000 円
参加費は当日受付にてお支払い下さい。

5．大会抄録集

学会員へは、参加の有無にかかわらず学会大会開催前にお送りします。非学会員へは、当日受付にてお渡しします。

【問い合わせ】

・参加・発表申込：大会実行委員会
メール：tsuji@nittai.ac.jp　電話／ FAX：03-5706-0926
・会員登録など：日本ハンドボール学会事務局
メール：hiroaida@taiiku.tsukuba.ac.jp　電話／ FAX：029-853-2635

第6回女子ユースアジア選手権に参加して

（公財）日本ハンドボール協会医事委員会　佐久間 克彦（熊本赤十字病院 整形外科）

2015年8月27日から9月3日まで、インド・ニューデリーで開催されました第6回女子ユース（U17）アジア選手権に帯同ドクターとして参加させていただきました。

インドでの開催ということで、『熱中症、下痢、蚊、イヌ』この4つをどのように対策するかをまず考えました。40度近い気温、さらには〝Welcome shower〟と呼ばれるインド訪問者に必発の下痢、さらにはマラリア、デング熱などの感染症を媒介する蚊、狂犬病の恐れのあるイヌ、ドクターとして対策すべきものと情報をかき集めました。

熱中症対策は、いうまでもなく適切な水分・塩分補給です。水分摂取の習慣を作っておくことは、大会に入ってからでは間に合わないので、監督と相談し選考合宿の際に水分摂取の重要性を指導する機会を頂戴しました。試合や練習の際はもちろんのこと、移動中なども常にペットボトルと塩タブレットを携帯させ、自発的な飲水を指導しました。実際に私が買い出しに行った際に、20分なにも飲まずに歩いていると、のどの渇きを覚えるほどの高温乾燥状態でした。

下痢に関しては、インドの下痢は感染性下痢というよりは生活環境によるものが大きいと考えられました。『水・油・香辛料』が原因だろうと外務省の方にも教わりました。食事に関しては日本食を大量に持ち込みましたが、さすがに限界があり、ホテルの食事を摂取する必要があります。予防手段として、歯磨きなどの生活に必要な水もペットボトルのものを用い、食事では必ずヨーグルト、ヤクルトなどを積極的にとるようにしました。さらに消化酵素、整腸剤を積極的に服用させました。それでも結果は選手スタッフ併せて18名中17名が下痢を発症する結果となりましたが、発熱は誰も伴いませんでした。選手たちには『下痢になったことは〝welcome shower〟といわれるくらい誰でもなるから悪いことではない、下痢になったことを伝えないほうがよくない』と話をし、下痢によるさらなるコンディション低下が起こらないように食事内容、水分摂取の対策をとりました。選手たちはやはり下痢を何とか止めてほしいという要求が強いですが、試合直前を除いてできるだけとにかく出すことが大事と話し、とにかくきちんと食べて、出し切ることが大切と理解してもらいました。

熱中症と下痢に関しては、これらに伴う脱水がなによりコンディションに影響します。今回の遠征でも脱水指標として尿比重測定を、毎日朝晩施行していたので、水分量の低下と考えられる選手には積極的に経口補水液を摂取させました。大会を通じて、体調不良のために宿舎で待機という選手がいなかったことは幸いかと思います。

遠征前には在インド日本大使館のホームページ上で感染症情報などを確認しましたが、やはり蚊とイヌに対してはいつも以上に注意を払うようにしました。遠征中はほとんど宿泊施設と競技場の往復がほとんどでしたので、イヌと接する機会は少なかったものの、野生のイヌがたくさん街中をうろついていたため、必要な物資の購入にはスタッフだけで行うようにしました。

蚊については、蚊よけスプレーの使用によって、インド滞在中には全然咬まれませんでしたが、日本に帰国直後にかゆみを覚えた時は、気の緩みとインドと日本の蚊との相性なのかなと感じました。

今回の遠征では、出発前に日本協会から大使館への情報提供に対して、強く関心を持っていただいたこともあり、デリー到着後石川監督と大使館へ訪問させていただきました。その際にデリーでの生活の仕方、日本食レストランの提案、困った際はいつでも電話してくださいとのお言葉に甘えさせていただき、滞在中衣食住に困ることなく生活できました。さらには大会終了後に八木大使ご夫妻に慰労パーティーを開いていただき、さらにはインド訪問されていた城内外務副大臣まで同席されるというめったにない機会を頂戴させていただきました。奇跡的な偶然なのですが、私自身の中学高校の先輩が、副大臣に同行されパーティーにいらっしゃったのは驚き以外の表現ができません。

本大会には審判団に日本の島尻・太田ペアがはいっていました。私も審判をさせてもらっていることもあり、旧知の間柄でしたので、大会中いろんなお願いをさせていただきました。快く引き受けてくださったこと改めて感謝します。審判としてさらなる挑戦を控えているということもあり、世界の舞台で活躍する彼女たちのレフェリングを羨望の眼差しで学ばせていただきました。ますますの活躍を心より祈念いたします。

女子ユースチームに帯同させていただき3年目になりました。常にドクターとして相談してもらいやすい環境を作ろうと努力をしていますが、石川監督、辻コーチ、宿利トレーナーにはいつも私が行動しやすいようにご配慮いただいておりますし、また日本協会の皆様にも大会前の諸準備をはじめ大変なご面倒をおかけしていますことを心より感謝申し上げ、私の帯同レポートを締めさせていただきます。

平成 27 年度スポーツ庁委託事業　第 2 回加盟団体連絡会議兼ドーピング防止研修会（主催：公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構）に参加して

日本ハンドボール協会医事委員会・アンチ・ドーピング特別委員会　貝沼 圭吾

例年開催されています上記研修会に参加しました。本研修会の目的は 2016 年から施行されますアンチ・ドーピング規定の主たる変更点の伝達がなされます。今回の研修会には 90 団体から 160 名を超える参加がありました。

第一に禁止薬剤の変更点では、一般的に使用される薬剤の変更点はほとんどありませんが、期中に変更されることもありますので、みなさまも JADA のウェブサイトなどには常に注意を払っていただきたいと存じます。

次に TUE（治療使用特例（和訳が変わりました））に関しては、2015 年 6 月から TUE 申請書書式が改定されたこと、書式が原則英語で記載の必要があるという点です。この書式は医師が記入するべきものですので、申請が必要な方は書式を準備していただき担当医に依頼してください。

さらに近年発生したアンチ・ドーピング違反についても報告がありました。今年度はすでに 8 件の違反が発生し、近年で最も多くなっております。蛋白同化男性化ステロイド薬、興奮薬などがその原因でありますが、指定選手が提出義務のある居場所情報を報告しなかったためによる違反も認めています。昨年度に関しては、気管支喘息で用いる薬剤でも数例のアンチ・ドーピング違反が報告されており、よりありふれた疾患での違反発生が増えてきておりますので、ますます注意が必要です。

また、JADA が力を入れている分野が若年アスリートに対する教育啓発活動です。日本ハンドボール協会のウェブサイト内でも様々なコンテンツを準備しておりますが、JADA のウェブサイトでも皆さんが馴染みやすく学習できる準備が整いつつありますので、ぜひ自己学習をお願いします。

最後になりますが、昨年度半ばより開始となりました未成年競技者に対する同意書取得に関しましては、皆様のご理解のもと順調に進むことができております。わかりづらい点も多くご面倒をおかけいたしておりますが、なにとぞ趣旨をご理解の上、変わらぬご協力をよろしくお願い申し上げます。

2015NTS 四国ブロックトレーニング

NTS 四国ブロック運営委員長　田中 達男

四国ブロックでは、2015 年 NTS 四国ブロックトレーニングを次のように開催いたしました。

1．場所：徳島県鳴門総合運動公園体育館
　　［アミノバリューホール］
2．日時：平成 27 年 8 月 29 日（土）～ 30 日（日）
3．参加者：総数 148 人
　小学生男子 13 人・女子 13 人
　中学生男子 16 人・女子 16 人
　高校生男子 16 人・女子 16 人
　引率指導者 26 人・派遣ディレクター 1 人
　インストラクター 10 人・NTS 委員 4 人
　運営委員 2 人・デモンストレータ 15 人

『2015NTS 四国ブロックトレーニング』(実施要項) を作成し、2015NTS 委員会組織の充実を図るとともに、運営委員やインストラクターを含む技術委員などの一人一人の役割を明確にして、一貫指導内容の伝達とその体制の構築ができるようにしました。

また、引率指導者と参加有資格者に対して、派遣ディレクターの青戸氏による「コーチセミナー」では、「世界のスタンダードと日本の現状」をテーマに、講義とフロアレベルでの研修（兼義務研修）を実施しました。指導者の経験を生かした内容に、受講者からは高評価を受けました。

これまで以上に、NTS の発掘育成システムを十分に理解した一貫指導ができていくものと考えています。その一方で、センタートレーニング推薦指導者の選考は、指導者も育成していくという観点から各指導者にとっては大きな目標となり、大変有意義であると考えられます。

今年度は、同じ日程・3 会場を使用して運営できたことにより、小・中・高の各カテゴリーにおいて、これまで以上に効果のある指導内容となりました。

今後の課題としては、①小・中・高の指導体制の一貫性をどのように持たせていくか、②各カテゴリー別に噛み砕いた説明の必要性、③指導者育成のための粘り強い取り組み、④選手選考の在り方の工夫と検証、⑤ U-12 における GK トレーニングの取扱いと小学生普及を兼ねた効果的な指導方法の検討があげられます。

最後になりましたが、毎年、絶大なる御協力いただいている「香川銀行チームハンド」の選手や徳島県協会役員をはじめ、運営に当たった多くの関係者の皆様には、深く御礼申し上げます。そして、今後、NTS 四国ブロックトレーニングがさらに充実したものになるよう御理解と御協力をお願い申し上げます。

European Handball Federation Scientific Conference 2015 Report

ヨーロッパハンドボール連盟 ハンドボール科学会議 参加レポート

福田　潤（宮崎大学教育文化学部）
市村 志朗（東京理科大学理工学部）
森口 哲史（福岡大学スポーツ科学部）
呉屋 良真（福岡大学大学院）

2015年11月13日から同14日までの2日間にわたり、ルーマニアの首都ブカレストにおいて、ヨーロッパハンドボール連盟(EHF)が主催するハンドボール科学会議が開催されました。ヨーロッパ各国はいうまでもなく、ロシアや中東地域より50名ほどのハンドボールに関わる研究者が参加しました。アジア地域からの参加は日本のみで、筆者らを含む5名が本会議に臨みました。基調講演やプレゼンテーション、それらに対する質疑応答が休む間もなく進められましたが、出席者らの〝熱〟を感じることのできる充実した会議でした。この会議の概要について、簡単ではありますが報告いたします。

EHFハンドボール科学会議の開催地は、前回までのオーストリアのウィーンから、今回ルーマニアのブカレストに移されました。滞在中に、ブカレスト大学教授のCezar Hantau氏がブカレスト市街を案内してくれました。中世から現代までの建築様式が混在する街並みは、落ち葉がみられる季節であったこともあり、とても美しく、小さなパリといわれる所以を感じることができました。Hantau氏からは、ルーマニアの歴史にはじまり政治、経済、ついにはアンダーグラウンドな事に至るまで様々な話を聞かせていただきました。中でも、吸血鬼ドラキュラのモデルとされているヴラド3世にまつわる話はたいへん興味深いものでした。実は、ヴラド3世は盗みや人殺しなどの犯罪に対して重罰を徹底することで地域を治めた名君であったようです。吸血鬼ドラキュラは重罰の徹底からくる残虐性とヴラド3世の父ヴラド2世がドラゴン（ドラクル）の称号を持つ騎士であったことの2つの要素を基に、ある小説家が創り出した怪物であるとのことでした。評価が分かれていることを表すかのように、お土産品を扱う店舗には名君風とドラキュラ風の2種類のヴラド3世人形が並びで販売されていました。ふと、忠臣蔵で悪人役として扱われている吉良上野介公が頭の中をよぎりました。

さて、隔年で開かれているEHFハンドボール科学会議は前回から会議に大きなテーマを設けるようになっています。前回の2013年会議ではWomen & Handballというテーマを掲げ、生理学、体力学、トレーニング科学、心理学、コーチング、ゲーム分析、コンディショニング、傷害予防などについて、女性ハンドボール選手・チームを対象とした研究報告がありました。今回の2015年会議が掲げたテーマはMedical Aspects in Handball: Preparation and the Gameというものでした。ハンドボールにおける障害予防の観点から基調講演が2件、ミニシンポジウムが10件、オーラルプレゼンテーションが16件、ポスタープ

レゼンテーションが12件ありました。具体的には、ハンドボールが誘発する障害についての疫学的調査の報告や、症例報告、術例報告、リハビリテーション例の報告、スローイング動作と障害の関連性についての研究報告などがありました。会議はブカレスト市内にあるインターコンチネンタルホテルの会議室2つとフロアスペースを使用し、基調講演1つあたり20分間、ミニシンポジウム1つあたり15分間、オーラルプレゼンテーション1つあたり15分間を予定して進められました。また、前回会議でとても有用であったネット配信が本会議でも準備されていました。

Jean Brihault EHF会長が、ハンドボールにおける科学的アプローチの重要性と、ビーチハンドボールを具体的事例として挙げながら生涯スポーツとしてのハンドボールの将来的な展望を述べられたところから本会議はスタートしました。挨拶の中で、Brihault氏は「今回も遠く日本から友人たちがまた参加してくれたことに感謝する。」と謝意を示されました。EHFトップのハンドボールの発展に対する純粋でオープンマインドな姿勢に深い感銘を受けました。続く2つの基調講演では、テル‐アヴィヴ大学のLior Laver氏からハンドボールに起因する障害に関する研究報告がとても少ない現状とコーチ・スタッフとプレイヤー、医学スタッフの3者が連携することの必要性、またスマートフォンなどソーシャルメディアを活用した障害データ収集の取り組みが紹介されました。さらに、得られた情報をクラブ・チームの枠を超え、地域を越え、国を超えて共有しようとの提言がありました。既に、FIFAが認定するrehasport clinicという医療団体はヨーロッパ各国の医師や病院と連携し、データを相互活用して障害予防および患者の治療から競技復帰までのプログラム作成に役立てているようです。この障害データの共有については、翌日にもオーラルプレゼンテーションの場で長時間討議が行われるほど議論を呼びました。同氏は障害に特化した部門をEHF内に創設することを強く望まれていました。次に、Javier Sobrino氏はビーチハンドボールの市場としての有益性の高さと将来性の豊かさについて、また運動が不足しがちな生活を送る人への健康的影響や差別がビーチハンドボールの抱える社会的問題として残っていることを述べられました。

基調講演の後に発表されたミニシンポジウムの内容をいくつか紹介いたします。Monika Grygorowicz氏らは、オーバーヘッドスローイング様の動きが必要となるスポーツ、例えば野球やバレーボール、バドミントンなどとケガとの関連について報告されている2000編以上の論文をレビューし、肩の故障を予防するためのエクササイズについて見解を述べられました。同氏らは、これまで発表された論文の多くに研究手法や対象者の選定などに不十分な点がみられることを指摘しつつも、①サービングの

動作速度においては、短縮性及び等尺性筋収縮による筋力トレーニングの効果と伸張性筋収縮による筋力トレーニングの効果との間に差はない、また体幹トレーニングを増やしてもスローイング動作の速度は増加しない、②スローイング動作の速度向上においては、closed kinetic chain exercises（手足が自由に動かない運動：腕立て伏せやスクワットなど）は open kinetic chain exercises（手足が自由に動かせる運動：ベンチプレスやレッグエクステンションなど）よりも効果がみられる、③筋力トレーニングは方法などを指導しながら行わせる方がずっと成果がみられることを報告されました。

Ciocoiu Florin 氏らは、スポーツ医による健康診断を基に障害予防のための方策を講じること、crioultrasound や Tcare (transfer capacitive resistive energy) などを活用したリハビリテーションを積極的に用いることが、結果的に低コストで高いパフォーマンスが得られることを述べられました。医師が行う健康診断ですから、血液検査や肝機能検査なども含めた全面的な身体データを基に障害予防プログラムが作成されることになります。筋骨格系の傷害ばかりに留意しがちになっていた筆者にとっては、障害予防について改めて考えさせられました。同氏らは、筋骨格系障害の予防について、①生活習慣を改善する、②水分摂取と栄養摂取を改善する、③病気時や疲労時にはトレーニングを回避する、④ウォーミングアップとクーリングオフに十分に時間を掛ける、⑤トレーニング量に比例して休息時間と回復時間を延長する、⑥筋力バランスの不均衡を是正する、⑦カルシウムやビタミンC、ビタミンDが豊富な食物を摂る、⑧医師の判断の下にトレーニングレベルを変えることを提言されました。

ザルツブルグ大の Herbert Wagner 氏からは、ハンドボールの投げ方の違いによる肩に対する負荷の影響が報告されました。平均 22.5 ± 3.7 歳、体重平均 84.4 ± 10.5kg、身長 1.87±0.06m、競技年数 10.3 ± 3.6 年のトップ選手 14 名を対象に、助走ありのスタンディングオーバーヘッドスロー（OT）、助走ありのスタンディングサイドスロー（ST）、ジャンプスロー（JT）、ピヴォットスロー（PT）の４種類の投げ方を 3D 解析して、骨盤の回旋、体幹の回旋、肩の回旋、肘の伸展動作の角速度の比較から負荷の程度を測ろうとするものでした。投げ方に関わらず、先ず骨盤、続いて体幹、肘がスローイング動作の加速期に、その後のフォロースルー期に肩（ボールがリリースされてから 1000 分の２～７秒後）の順で各部位の最大角速度を迎え、肘部と肩部は加速期終盤に急激な速度上昇がみられたことが示されました。また、肩の回旋における角速度が４部位の中で最大で、OT が４種の投げ方

表１　スローイング種別および体部位別にみた最大角速度　n=14

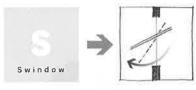
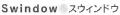
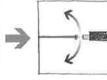
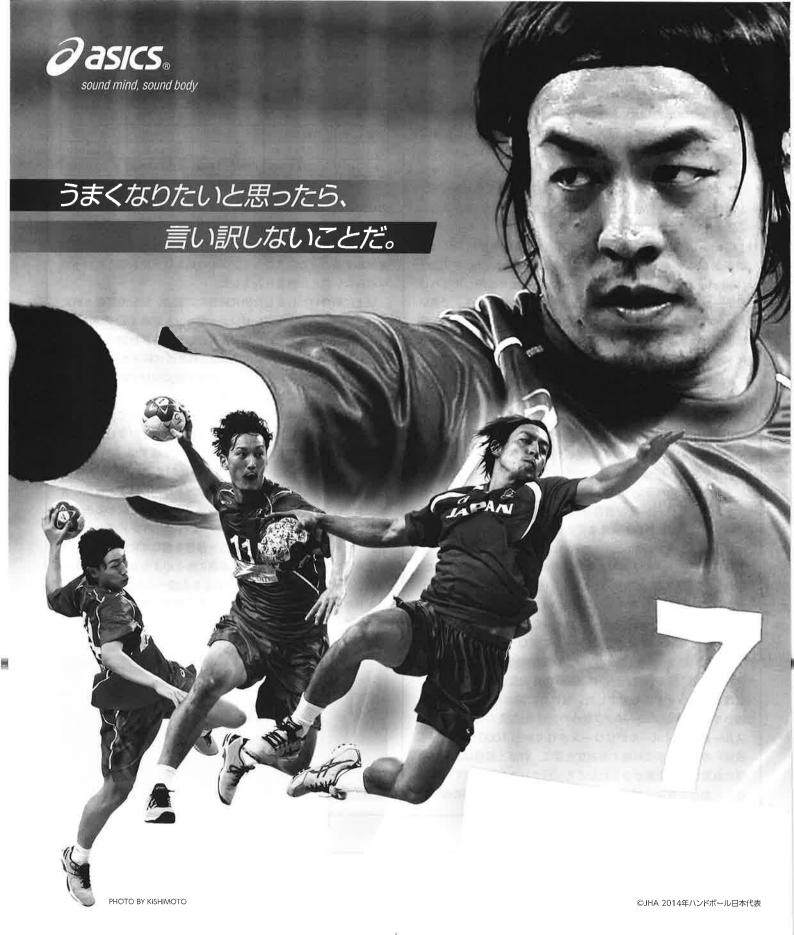
	スタンディングオーバーヘッドスロー	スタンディングサイドスロー	ジャンプスロー	ピヴォットスロー
骨盤（°/s）	610 ± 90	590 ± 160	440 ± 110	370 ± 80
体幹（°/s）	830 ± 80	810 ± 160	730 ± 80	640 ± 60
肘（°/s）	1700 ± 290	1580 ± 340	1630 ± 220	1420 ± 650
肩（°/s）	5630 ± 1260	5150 ± 1400	4920 ± 950	4730 ± 910

Herbert Wagner et al.（2015）よりデータ引用

の中で最大であることが明らかとなったようです（表 1）。スローイング動作においては負荷が肩に集中していることが示唆されることから、肩の障害予防のためには①回旋筋腱板のトレーニングを付加することと②スローイング中の腕を後ろから掴みにいってはならないことが提言されました。

以上に紹介いたしました研究報告の詳細は、誌面の都合上割愛させていただいた他のプレゼンテーションも含めて EHF の Web サイトから閲覧することができます。加えて、本会議に向けて投稿された計 48 編の研究論文が掲載された公式科学 book が EHF から近日中に発行されますので、障害予防についてのヒントを学ぶことができるのではないかと考えます。

本会議の出席者は大学でハンドボールを専門としている研究者と医師をはじめとした医療従事者とで構成されていました。忌憚のない意見を交わすことは簡単ではなかったはずが、熱い議論が交わされながら会議は予定時間をゆうに超えて終了となりました。会議が終わっても、出席者らに疲労感はみられず、貪欲に情報交換を行っていました。各々が会議で得た知見を携わるチームの強化に活かすためというよりも、全員が〝ハンドボールの発展〟のために参加しているという一体感を感じずにはいられない２日間でありました。我々は、幸運にもこのような貴重な機会を得ることができております。これからも会議への出席を継続させ、ハンドボール発展のために微力ではありますが尽くしたいと考えています。

〝It' s a team sport !〟

高松宮記念杯男子第58回・女子第51回全日本学生ハンドボール選手権大会

開催期日：2015年11月7日（土）～11月11日（水）
会　　場：函館市・函館アリーナほか

【男　子】

▼1回戦

中京大（東海）36（19－8、17－7）15 新潟大（北信越）
立教大（関東）32（16－17、16－13）30 同志社大（関西）
日本大（関東）29（16－14、13－9）23 名城大（東海）
国士舘大（関東）22（13－9、9－12）21 福岡大（九州）
中部大（東海）31（16－8、15－13）21 東北福祉大（東北）
関西学院大（関西）38（20－15、10－15）33 法政大（関東）
（5－1 延長 3－2）
大阪体育大（関西）41（22－11、19－8）19 北海道大（北海道）
日本体育大（関東）38（20－14、18－14）28 大阪経済大（関西）
中央大（関東）32（16－8、16－15）23 関西大（関西）
大同大（東海）37（16－8、21－17）25 富士大（東北）
早稲田大（関東）27（13－10、14－8）18 愛知教育大（東海）
東海大（関東）39（17－8、22－10）18 名桜大（九州）
朝日大（東海）29（16－16、13－11）27 明治大（関東）
順天堂大（関東）31（17－14、14－15）29 近畿大（関西）
環太平洋大（中四国）30（13－10、17－14）24 函館大（北海道）
筑波大（関東）40（22－10、18－12）22 桃山学院大（関西）

▼2回戦

中京大 28（13－6、15－11）17 立教大
日本大 25（10－12、12－10）24 国士舘大
（2－1 延長 1－1）
関西学院大 26（13－13、13－12）25 中部大
日本体育大 34（19－12、15－17）29 大阪体育大
大同大 28（12－8、16－14）22 中央大
早稲田大 34（19－10、15－14）24 東海大
朝日大 26（17－10、9－15）25 順天堂大
筑波大 31（20－8、11－5）13 環太平洋大

▼準々決勝

日本大 22（10－10、12－9）19 中京大
日本体育大 33（11－14、22－15）29 関西学院大
早稲田大 30（16－13、14－13）26 大同大
筑波大 35（16－13、19－10）23 朝日大

▼準決勝

日本体育大 31（14－13、17－11）24 日本大
早稲田大 42（17－15、13－15）33 筑波大
（4－1 延長 8－2）

▼決　勝

日本体育大 33（17－16、16－13）29 早稲田大

【女　子】

▼1回戦

大阪体育大（関西）48（26－1、22－7）8 仙台大（東北）
福岡教育大（九州）27（11－15、12－8）26 茨城大（関東）
（3－2 延長 1－1）
同志社大（関西）38（20－10、18－5）15 金沢大（北信越）
桐蔭横浜大（関東）33（16－8、17－12）20 天理大（関西）
関西大（関西）21（13－6、8－10）16 日本女子体育大（関東）
福岡大（九州）44（23－4、21－3）7 札幌国際大（北海道）
東海学園大（東海）25（11－13、14－5）18 東北福祉大（東北）
筑波大（関東）27（13－9、14－9）18 環太平洋大（中四国）
大阪教育大（関西）22（12－12、10－7）19 国士舘大（関東）
東海大（関東）24（13－12、11－10）22 武庫川女子大（関西）
早稲田大（関東）23（9－12、14－8）20 大同大（東海）
日本体育大（関東）35（17－1、18－2）3 名桜大（九州）
関西学院大（関西）38（20－4、18－5）9 東海大学札幌（北海道）
富士大（東北）28（10－14、15－11）27 立命館大（関西）
（2－0 延長 1－2）
中京大（東海）43（21－6、22－5）11 富山国際大（北信越）
東京女子体育大（関東）44（21－7、23－6）13 環太平洋大学短期大学部（中四国）

▼2回戦

大阪体育大 56（28－8、28－3）11 福岡教育大
桐蔭横浜大 35（16－13、19－16）29 同志社大
関西大 27（12－10、15－11）21 福岡大
筑波大 28（15－9、13－8）17 東海学園大
大阪教育大 35（20－13、15－12）25 東海大
日本体育大 27（11－8、9－12）26 早稲田大
（2－2 延一 1－1）（2－0 延二 2－3）
富士大 22（10－7、12－8）15 関西学院大
東京女子体育大 27（15－6、12－4）10 中京大

▼準々決勝

大阪体育大 29（17－15、12－7）22 桐蔭横浜大
筑波大 29（12－14、17－6）20 関西大
大阪教育大 22（16－9、6－12）21 日本体育大
東京女子体育大 33（15－8、18－4）12 富士大

▼準決勝

大阪体育大 33（21－5、12－13）18 筑波大
東京女子体育大 21（15－10、6－10）20 大阪教育大

▼決　勝

大阪体育大 30（13－11、17－10）21 東京女子体育大

訃報

日本ハンドボール協会前会長　米倉　功（よねくら　いさお）様が、昨年12月6日に肺炎のため東京都内の病院で逝去されました。
享年93。
故米倉様は、平成7年から平成15年までの8年間、会長の重責を担われました。ご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申しあげます。

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」11・12月入会・継続会員

【北海道】小田原　海【宮城】千田文彦【栃木】坂本定芳【群馬】河内弘美【埼玉】松本隆栄、沼倉陽子、沼倉　久、岡村昭二、長田健吾【千葉】山田友美、相浦美波【東京】大熊昌巳、岡前義春、佐藤俊男、佐藤映子、竹内　稔【神奈川】福井俊彦、田原やよい、大井壮信、生熊健二、加古川範子【山梨】原　直人【長野】須坂　豊、須坂美喜【新潟】飯田和弘【富山】尾上朋子、吉水慎一【静岡】保坂亮樹、青木美佳、鈴木里美、長橋淳夫【愛知】長沼睦美、佐藤壮一郎、十枝内厚次、坂本丈一、藤戸壮士、荒川健児、新井こずえ、加藤恵美子、稲本　等、伊藤克美、野田　清、坪井夕香、臼井志保、大西　慶、山本智子、井田ゆかり、福島寿男、日高純子、日高紗良、内田元規、岡田洋典【三重】黒木忍、細野秀男【岐阜】塚原清香【滋賀】谷口俊夫、高畠典克【京都】守本幸三郎【大阪】西野　誠、山本伸二【鳥取】足立逸郎【岡山】奥埜美峰、奥埜啓子【広島】白石　隆【熊本】藤田八郎

【2月・3月の行事予定】

【会議】……………………………………………………………
2月13日(土)　第2回理事会
2月14日(日)　第2回全国理事長会
3月12日(土)　常務理事会

【大会】……………………………………………………………
2月5日(金)～7日(日)
全日本社会人チャレンジ2016…（福井県・永平寺町）
3月24日(木)～29日(火)
第39回全国高校選抜大会……（兵庫県・神戸市ほか）
3月25日(金)～29日(火)
第11回春の全国中学生選手権大会（富山県・氷見市）
3月26日(土)～27日(日)
第40回日本リーグプレーオフ（東京都・駒沢体育館）

HAND BALL CONTENTS Jan. Feb

年頭にあたり　渡邊佳英……………………………………1
リオ・デ・ジャネイロ・オリンピック男子アジア予選
選手団長・市原則之……………………………………2
監督・岩本真典／主将・信太弘樹……………………5
戦評……………………………………………………6
第67回日本選手権大会
大会を終えて　矢野哲二……………………………10
男子優勝：トヨタ車体　監督・酒巻清治…………12
女子優勝：北國銀行　主将・寺田三友紀
試合結果………………………………………………13
ブロック予選結果……………………………………15
男子第58回・女子第51回全日本学生選手権大会…18
総評　武井昭也………………………………………19
男子優勝：日本体育大学　コーチ・生川岳人……20
女子優勝：大阪体育大学　苧野祐子………………21
戦評……………………………………………………22
初出場：札幌国際大学　監督・武井昭也…………24
初出場：環太平洋大学　監督・前田誠一…………25
第13回日本車椅子競技大会 …………………………26
男子U-16日韓スポーツ交流　阿部直人 ……………28
女子U-16日韓スポーツ交流　尾石智洋 ……………30
第3回全国U-12指導者研修会　竹内貞明 …………32
フリースロー：覚悟を持った強化体制を　早川文司 36
平成27年度日本ハンドボール学会主催研究セミナー／日本ハンドボール学会（JAHR）第4回大会開催要項 37
医事専門委員会だより：
第6回女子ユースアジア選手権に参加して
佐久間克彦……………………………………………38
第2回加盟団体連絡会議兼ドーピング防止研修会に参加して　貝沼圭吾……………………………………39
ヨーロッパハンドボール連盟
ハンドボール科学会議参加レポート
福田潤・市村志朗・森口哲史・呉屋良真…………40
スコアールーム：
男子第58回・女子第51回全日本学生選手権大会…43
訃報／20万人会会員／2・3月の行事予定／もくじ…44

molten
For the real game

molten
For the real game

国際ハンドボール連盟
公式試合球
IHF OFFICIAL GAME BALL

（公財）日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』第五五七号

平成二十八年一月二十六日印刷
平成二十八年二月一日発行

東京都渋谷区神南一―一―一
電話　代表〇三―三四八一―二三六八
振替　〇〇一二〇―七―一〇二九三

編集兼発行人　川上憲太

定価　年間三三〇〇円